

2023年度 公開シンポジウム

千葉県150周年

発展の軌跡とこれからの展望および課題

～大学に求められる役割～

2023年12月10日(日) 13:00～15:00(オンライン)

[報告]



シンポジスト(順不同)

高橋 輝子 氏(千葉県総合企画部 政策企画課 課長)

伊澤 敏和 氏(千葉日報社 編集局 報道部 部長 論説委員)

小高 正浩 氏(株式会社ちばぎん総合研究所 調査部長)

プログラム

開会あいさつ

第1部 千葉県150年の発展の軌跡

第2部 これからの展望と課題

第3部 大学に求められる役割

質疑応答

閉会あいさつ

※本シンポジウムは、敬愛大学公式You Tubeチャンネルよりご視聴いただけます。

視聴URL <https://www.youtube.com/watch?v=SVkV5SNvUr8>



敬愛大学総合地域研究所は2023年12月10日、「千葉県150周年 発展の軌跡とこれからの展望および課題 - 大学に求められる役割 -」をテーマにシンポジウムを開催した（Zoomオンライン会議方式で実施）。シンポジストとして学外から、高橋輝子氏（千葉県総合企画部政策企画課課長）、伊澤敏和氏（株）千葉日報社編集局報道部部長・論説委員）、小高正浩氏（株）ちばぎん総合研究所調査部長）の3氏（順不同）をお招きし、第1部「千葉県150年の発展の歴史」、第2部「これからの展望と課題」、第3部「大学に求められる役割」の三部構成でご議論いただいた。司会は当研究所所長の織井が担当した。

このシンポジウムを通じて、かつては全国都道府県の中で比較的普通の県であった千葉県が次第に重要度を増し、全国有数の経済力を有する県に至った経緯を確認するとともに、今後発展を続けるためにどのような課題に対処すべき必要があるかについても認識を共有できた。同時に本学のように本県を主要な存立基盤とする高等教育機関がどのような役割を果たしていくべきかについても率直な意見交換を行った。本稿は、当日の議論の様子について、質疑応答等を含めて収録し、今後の千葉県の発展を図るための参考に供するものである。

## 開会あいさつ

**織井** これより2023年度敬愛大学総合地域研究所のシンポジウムを始めさせていただきます。本年度のシンポジウムのタイトルは「千葉県150周年発展の軌跡とこれからの展望および課題」でございます。副題に「大学に求められる役割」と付けさせていただきます。今年には1873年、明治6年に千葉県が誕生いたしまして150年になります。県内でいろいろな行事が行われておりますが、本学におきましても150周年をことほぎまして、県内のさまざまな分野の方々と、地元である千葉県の来し方行く末を一度じっくり考える機会を作りたいと願いました次第です。

次に本日のシンポジウムの進行予定を簡単にご案内申し上げます。開会のごあいさつに続きまして、第1部は「千葉県150年の発展の軌跡」をたどります。続く第2部では「千葉県のこれからの展望と課題」について考えてまいりたいと思います。最後の第3部は「大学に求められる役割」でございます。本学のような地元に着目する高等教育機関に対する、ご期待やご要望をお伺いできればと思っております。閉会ごあいさつの前には、質疑応答の時間を設けさせていただき予定でございます。

続きまして、本日のシンポジストの皆さまをご紹介申し上げます。順不同でございます。まず、千葉県庁様から県政の中核を司る総合企画部政策企画課の高橋輝子課長さまにお越しいただいております。本日は、県議会開催中のお忙しい中をご参加いただき、ありがとうございます。お二方目は、地元メディアを代表いただいて株式会社千葉日報社様から、編集局報道部の伊澤敏和部長さまにご参加いただきます。論説委員も兼務され、県政から県内各地域のさまざまな問題まで知悉されておられる方です。よろしく願いいたします。そして、お三方目は、株式会社ちばぎん総合研究所様の調査部から、小高正浩部長さまにご参加いただいております。申すまでもなく、県内トップ金融機関である千葉銀行グループの研究機関でいらっしゃることで、県内のさまざまなプロジェクトのブレーンを務めておられます。どうぞよろしくおねがいたします。

それでは初めに、シンポジストの皆さまから一言ずつ簡単にごあいさつを頂戴いただけ



ればと思います。千葉県の高橋課長さんからお願いいたします。

**高橋** 千葉県総合企画部政策企画課長の高橋でございます。本日はよろしくお願いいたします。政策企画課長には今年の4月に就任をいたしまして、それまでも県庁の職員でございましたので、さまざまな部署を経験してきておりますが、政策企画課に来たのは20年ぶりぐらいのことでございます。その間、例えば報道広報課で千葉の魅力発信といった仕事を担当していたり、あるいは農林水産部で流通販売課長として農産物のプロモーションや、輸出関係の仕事をしていたり、あるいは商工労働部で産業振興課長や経済政策課長などとして、そういった産業振興の分野について、担当してきたところがございます。また、堂本知事の頃ですが、知事室、今の秘書課で堂本知事の随行秘書を4年ほど務めた経験もがございます。今日はこれまでを振り返り、今後について語り合えればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**織井** よろしくお願いいたします。それでは続きまして、千葉日報社の伊澤部長さん、お願いできますか。

**伊澤** 千葉日報の伊澤です。現在は報道部長で、県内支局を統括するいわゆる「デスク」をしております。今年5月下旬まで同じ報道部長ではありましたが、県政を担当し、高橋課長がいらっしゃる県庁を主な取材の現場としておりました。政治・経済の担当部長でしたので、ちばぎん総研さんにもいろいろとお世話になっていたところでした。第1部で少々、経歴にも触れようとは思っていますが、県政を担当していましたので千葉県知事、懐かしい名前の沼田武知事や、堂本暁子知事、森田健作知事、熊谷俊人知事と、連続ではないですがこの4人の知事を取材した経験があり、弊社からこの場に参加して話をしてこいという指示がありましたので、きょうは出席させていただきました。よろしくお祈りします。

**織井** それでは、ちばぎん総合研究所の小高部長さん、お願いいたします。

**小高** 皆さま、こんにちは。ちばぎん総合研究所の小高と申します。先ほど、織井所長さまからご紹介いただきましたとおり、弊社は千葉銀行のグループ会社の一つとして、千葉県経済に関わる各種調査ですとか、あるいは千葉県または県内の市町村のまちづくりに関わる計画策定などをお手伝いさせていただいております。それと、弊社には調査部の他にコンサル部という部署がございます。この部では、地域の中小企業、事業者の皆さまのさまざまな課題の解決に寄り添って取り組んでいくというような活動もしております。地域に密着した会社として、今後とも地域の発展に貢献していくように、皆、一丸となって取り組んでおりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## 千葉県150年の発展の軌跡

**織井** 皆さま、ありがとうございました。今日はいろいろなバックグラウンドの皆さまとお話できて、大変期待しておりますので、どうぞ1日よろしくお願いいたします。それ



では早速、第1部の「千葉県150年の発展の軌跡」に入らせていただきます。第1部の千葉県150年の発展の軌跡の部では、まず私ども敬愛大学総合地域研究所で簡単に取りまとめさせていただきました報告をご紹介します。それを出発点にシンポジストの皆さまから、さまざまな視点でご議論いただければと思っております。私どもの報告では、千葉県の発展を四つの分野でまとめてみました<sup>1</sup>。すなわち、人口、農業、工業、サービスの四つの分野でございます。それぞれの長期の推移についてご報告いたしたいと思っております。他に、水産業、文化など千葉県には大変重要な産業や分野も多々ございますが、本日は時間の制約もございますので、ご了解を賜りたいと思っております。

初めに、一つ目の視点といたしまして、人口の推移からご報告したいと思っております。千葉県は現在、人口規模は全国6位でございます。千葉県が誕生いたしましたのは150年前の1873年、明治6年6月15日でございます。当時ございました木更津県、印旛県という両県が合併して今日の千葉県が誕生しておるわけでございますが、千葉県の人口を100年で比較をしてみます。1920年(大正9年)に国の第1回国勢調査が行われましたが、この当時、千葉県は133万6,155人ございました。全国の府県(当時は府と県しかございませんでした)の中で14番目でございます。日本全体の2.4パーセントを占めておりました。それが100年後の2020年(令和2年国勢調査)には628万4480人となりまして、全国47都道府県の中で6番目に大きくランクアップしております。割合で申しますと、日本全体の5.0パーセントを占めるまでに増加しております。

人口の多い順番で申しますと、東京、神奈川、大阪、愛知、埼玉に次ぐ6位ということになります。人口大県でございます。このような千葉県の人口増加の背景にどのようなものがございますかと申しますと、一つには千葉県内の産業発展がございますし、また東京、首都圏のベッドタウンとしての人口流入もございます。特筆すべきものとして、八千代台団地(八千代市)は全国の「住宅団地発祥の地」として名前を残しております。ただし千葉県の人口増加もピークアウトの気味がございます。近年では県内の一部市町(8市5町の全域あるいは区域<sup>2</sup>)で過疎化の問題も起こりつつあるということは、念じておきたいと思っております。

二つ目の視点としまして、産業発展の中で農業について触れてみたいと思っております。千葉県は戦前からの農業大県と申し上げてよろしいかと思っております。千葉県の農業産出額の数字は、戦後でございますが1955年には671億円で、全国の4パーセントを占めておりました。2020年、3年前でございますが、この数字は3853億円で全国の4.3パーセント、従いまして1955年とほぼ変わらない、少しアップしているという数字でございます。この数字は全国47都道府県の中では、北海道、鹿児島、茨城に次いで、なんと全国4位でございます。品目別にもう少し見ておきたいと思うのですけれども、主要11品目<sup>3</sup>の産出額、これ2021年

1 千葉県立中央博物館の『「写真で見るちばのあゆみ」パネル巡回展』、千葉市立郷土博物館の『商人たちの選択－千葉を生き抜いた商家の近世・近現代』など、千葉県150周年に関わる県内各機関のイベントも参考にさせていただきました。

2 旭市(旧干潟町)、勝浦市、鴨川市(旧天津小湊町)、南房総市、東庄町、長南町、大多喜町、鋸南町、匝瑳市(旧野栄町)、香取市(旧佐原市、旧山田町、旧栗源町)、山武市(旧松尾町)、いすみ市(旧夷隅町)、九十九里町。

3 米、いも類、野菜、果実、花卉、工芸農作物、生乳、肉用牛、豚、鶏卵、ブロイラー。農林水産省「令和4年(2020年)農業総産出額及び生産農業所得(全国)」によると、豆類は全国2位である。なお、同年の千葉県の農業産出額(3,676億円)は、野菜(1,335億円)、米(472億円、全国8位)、豚(467億円)、鶏卵(297億円)、生乳(226億円)の順である。



の数字でございますが、千葉県は11品目中6品目で上位5位に入っております。花卉が2位、鶏卵2位、野菜が3位(野菜は1位だった時代もあります)、いも類が4位、生乳が5位、ブタが5位ということで、北海道を除けば千葉県は全国でトップクラスの農業に貢献をしている県ではないかと考えられます。首都圏の県として大変、農業も盛んだということが特筆すべきことであるかと思えます。

ただ、千葉県が農業大県となりました背景には、先人のたいへんなご苦労があったということをおきたいと思えます。江戸時代以来、湖沼の埋め立てが行われました。県の東の方にありました椿海という湖沼、これは現在もうなくなりましたけれども、こういった湖沼の埋め立て、また手賀沼や印旛沼の埋め立てなども千葉県の農業発展を支えてまいりました。また、農業用水が不足する地域に対してましては、両総用水や大利根用水のように利根川から農業用水を引っ張るような整備をしました。このような先人の努力が今日の農業大県、千葉県を支えているということは心にしっかり刻んでおきたいと思えます。千葉県の皆さんにも「農林水産業振興計画」を策定いただき、現行の計画(2022~2025年度)では農林水産業をさらに魅力ある産業にしよう、農林漁業者の所得を向上しよう、あるいは農林漁村を活性化させようということで、意を砕いていただいているところでございます。

続きまして三つ目のポイントといたしまして、工業についてまとめさせていただきます。既に明治以前、江戸時代以来、千葉県の特徴ある製造業としましては、野田や銚子の醤油等の醸造業がございました。これは利根川、江戸川の水運を利用したり、大消費地である江戸に近接するというロケーションのメリットを生かしたものでございましたが、戦後、工業県へ大きく脱皮するきっかけとなりましたのは、1950年代でございます。川崎製鉄(現・JFEスチール)の千葉製鉄所誘致がきっかけとなり、その後東京電力の火力発電所や、八幡製鉄(現・日本製鉄)の君津製鉄所(現・東日本製鉄所)などの大規模事業所の進出が続き、東京湾沿いに大規模な埋め立て地が造成されました。そういう基幹産業の進出で一大重化学工業地域へと発展するに至ったわけです。さらにその後、内陸工業団地(全県で76団地)の造成や新産業三角構想(以下で千葉県高橋課長さんがご解説)等、千葉県内では工業発展のいろいろな計画が作られました。工業統計を使って数字で押さえておきたいと思えますが、終戦直後の1950年(昭和25年工業統計表)では、製造品出荷額(従業者4人以上の事業所)は231億円で全国の1.0パーセントでございました。24位でございますので、全国47都道府県のちょうど真ん中でございました。それが70年後の2020年(令和3年経済センサス-活動調査)には、製造品出荷額等(同上)は11兆9,264億円ということで、全国の3.9パーセント、8位にまで上昇しております<sup>4</sup>。千葉県の工業の発達、工業大県への発展の中にも、特に戦後の政策的なデザインというものが大きく貢献しているということが分かるかと思えます。

続きまして4番目、サービス分野にも目を向けてみたいと思えます。戦前の観光基盤ということでは、もう1000年を超えるような歴史のある香取神宮や成田山新勝寺などがございましたけれども、明治以降、戦前には千葉県は海水浴場の開発が進んだという時代がございます。私どもの敬愛大学は稲毛に立地しておりますけれども、南側の稲毛海岸が千葉県の中では最初に開発された海水浴場ということでございます。また内房、外房でも海水浴場の開発が進みました。文学でも、外房では一宮ですね、芥川龍之介さんが小説(「海のほとり」)を書かれておりますし、お弟子さんの堀辰雄さんが内房の竹岡海岸を小説(「麦



藁帽子」) で書いたこともございます。このように戦前は海水浴場としての開発が進むという時代がございました。

戦後はこれに加えて、大型レジャーサービス施設が開設されていくという時代を迎えます。1955年には当時「東洋一」と称されました船橋ヘルスセンターが開場します(1977年閉園)。それから1960年代以降になりますとマザー牧場、行川アイランド(2001年閉園)、鴨川シーワールドなどが開園して、首都圏などからも集客力のある大型のレジャーサービス施設が開設していきます。さらに1980年代に入りますと、東京ディズニーランドや幕張メッセなど、国際施設が開設されるという時代を迎えます。このようなサービス分野でも千葉県は大変大きな発展を見せてきたということが分かります<sup>5</sup>。

これを支える交通インフラも大きく発展しております。鉄道網から申し上げますと、主要路線では総武本線、常磐、京成、外房、内房、東武(野田線)、京葉の各線が順次開業し、今世紀に入りまして筑波エクスプレスなど新しい線も開通しております。またモータリゼーションを背景としまして、高速道路網も1960年代以降、京葉道路、新空港道、千葉東金道路、東関東自動車道など順次開通、その後も館山道、外環道、圏央道(部分)等の整備が続きました。特に東京湾アクアラインは、その後の料金引き下げもございまして、千葉県の半島性の解消にも大きく貢献することになりました。

もう一つ特筆すべきは、千葉県内に国際空港が開港したということではないでしょうか。1978年、当初は新東京国際空港(2004年に成田国際空港に改称)として成田空港が開設されています。このようにサービス分野についても大きく千葉県は発展して、国際性を備えるに至ったということが言えるかと思えます。簡単ではございますけれども、四つの点にしばりまして、千葉県の150年、特に戦後の発展の軌跡をたどって見たところでございます。ご清聴ありがとうございます。

続きまして、シンポジストの皆さまからさまざまな視点で、千葉県の発展の特徴につきましてご意見を伺えればと思えます。ではまず、千葉県の高橋課長さん、よろしく願いいたします。

**高橋** 織井先生、非常に分かりやすく、話をまとめていただきました。ありがとうございました。私からは、県の立場から新産業三角構想について、説明をさせていただきます。

資料のとおり、千葉新産業三角構想は1983年6月に策定し、県内陸部の方に先端技術産業を導入していくことを目指して策定された構想でございます。1983年といえば、先ほどご紹介がありましたように成田空港が1978年に開港したので、その5年後に策定された構想でございます。また、臨海部の工業地帯につ



【高橋 輝子 氏】

4 上位から、愛知、大阪、静岡、神奈川、兵庫、埼玉、茨城、千葉の順。

5 令和3年(2021年)の千葉県商工労働部観光企画課「千葉県観光入込調査報告書」によると、コロナ禍直前の2019年時点で観光入込客数(延べ人数)の多かった上位20位までの観光地等(公表不可の施設を除く)は、道の駅・PA等を除くと、東京ディズニーリゾート(2,901万人地点、ただし年度ベース)、成田山新勝寺(1,197万)、幕張メッセ(765万)、Zozoマリスタジアム(231万)、香取神宮(217万)、県立柏の葉公園(144万)、東京ドイツ村(89万)、鴨川シーワールド(84万)、一宮・東浪見・釣ヶ崎海岸(60万)の順であった。また、道の駅・PA等は、海ほたるPA、パサール幕張(京葉道路)等11か所の合計で2,029万人地点。ちばぎん総研小高部長のスライド 産業③(P.18)も参照。



いては、これも先ほどご紹介がありましたように、1950年に川崎製鉄を誘致して、1951年から操業し、それから30年ぐらい経ち、臨海部が発展してきたことから、内陸部の方にもこの発展をつなげていきたいという思いで策定された構想でございます。

千葉市の幕張新都心、それから木更津市のかずさアカデミアパーク、そして成田市の成田国際空港といった3つの拠点を中心に、それらをつないでいく高速道路の整備をしながら、発展を続けていくといった構想になっております。

幕張新都心については、国際交流の場や研究開発機能、それから学術・教育の拠点としての位置づけをした構想です。現在はそれに基づいて、まず幕張メッセが開業し、そしてWBGであったり、イオンモールなどが立地し、また学術の拠点という意味では神田外語大学などいくつかの大学が立地をしている地域にもなってきています。他にも企業では、本社機能を有しているウェザーニューズ、あるいはQVCジャパン、そして、先日、メルセデスベンツ日本の本社が移転をしてくるといった発表がされているところでございまして、この構想さながらに発展を続けてきている街になってきたと思っています。

それから、かずさアカデミアパークは、木更津市と君津市に跨る地域にございますけれども、かずさDNA研究所という研究所を県として設立しました。開所が1994年ですが、DNAの研究を専門に行う世界で初めての研究所ということで、まだDNAって何だろうと世の中が言っていたような時代に、県が出資をして設立した研究所になっています。ここは世界で初めて植物のシロイヌナズナのDNA解析、全ゲノム解析を行ったりと、非常に成果を挙げてきた研究所で、今でもこの業界としては地位を誇っている研究所になっています。かずさアカデミアパークではDNA研究所を中心に、バイオに関する企業や研究機関を立地させていこうという計画でございました。時代がいろいろあったこともあって、今ではバイオに関する企業等だけではなく、いろいろな研究機能を持つ企業を立地させるサイエンスパークを目指し、工業団地的な整備をしたところ、だいぶ区画は埋まり残っている区画はほとんどない状況になっているところでございます。

それから成田空港周辺の成田国際空港都市構想ですが、皆様ご存じのとおり、成田空港は開業いたしまして50年ぐらいになりますけれども、旅客数としては年間約4,000万人という立派な国際空港になりました。既に物流企業が周辺に立地をしておりますけれども、県としては、更に物流の拠点とし、また先端技術産業の集積地にもしていきたいと考えているところでございます。後ほど、少しご紹介しようと思っておりますが、県としてもいろいろな構想を持ちながら、県の発展が進んできたと思っております。私からは以上でございまして。

### 千葉新産業三角構想(1983年6月策定)

- ・工業構造の高度化と均衡のとれた地域づくりの実現
- ・千葉市,木更津市,成田市の地域を中心に3つの構想を推進

幕張新都心構想



かずさアカデミア  
パーク構想



成田国際空港都市構想





### 3つの構想

#### 幕張新都心構想

国際的交流の場や研究開発機能及び学術・教育の拠点として位置づけ

- 幕張メッセやWBG、イオンモール、神田外語大学などが集積

#### かずさアカデミアパーク構想

研究開発機能の拠点として位置づけ

- かずさDNA研究所を中心に企業や研究施設の立地が進む

#### 成田国際空港都市構想

空港に関連した物流拠点として位置づけ

- 空港周辺に物流施設が進出し、今後更なる進出が期待される

**織井** 高橋課長さん、ありがとうございました。続きまして千葉日報社の伊澤部長さん、お願いいたします。

**伊澤** 織井所長と高橋課長が、県の成り立ちと言いますか発展の軌跡を、ダイジェストでご説明していただきました。この後、ちばぎん総研さんの小高さんからも多分、分析の視点のご説明があるかと思っています。若干、違う見方で説明させていただきたいと思います。県の発展を考えた時に、千葉県をリードしてきた知事や、している知事という視点で見たいと思います。私が外勤記者となったのが、1999年(平成11年)、政治部に配属になりました。当時は沼田武知事でした。その後、堂本知事になる時は、選挙時から取材し、柏支局や国会担当に異動し、船橋支局を経て、本社で社会部などを経た後に、また船橋や習志野市などを担当する支局に行き、その後千葉県政に戻ってくるという、かなりいろんな部署を経験しました。県政に戻ってきた時に森田知事の残り任期が半年ぐらだったもので、「じゃあ次、森田知事は4期目をどうするのか」ということが焦点でした。結局、今期(3期)で終わりというになり、熊谷知事が千葉市長から知事選に挑戦するなど、その辺も取材しました。熊谷知事になってからも、就任直後からコロナ禍の中でいろいろと県政運営をされていったのを見てきたっていうのが、きょう、この場にいる理由の一つかと考えております。



【伊澤 敏和 氏】

沼田武知事については、時代が求めていたという部分もあるのと、それを支えた自民党と、がちりタッグを組んで本当に社会基盤の整備などが進んだな、と思っています。高橋課長が県庁の中でいろんな知事をご覧になっていて、きょうは県職員の方もいらっしゃるんですけども、職員目から見た知事との距離感と、また県庁の中にある記者クラブにいて、その中で外部という立場で知事を見てきた意味で、若干、解釈の違いもあるのかもしれないですが、本当にざっくり言うと沼田知事はインフラ整備を加速しました。今ご説明がありました新産業三角構想を中心に、発展した時代をリードしてきたと考えています。5期20年にわたって大変、長く県政を運営してこられて、もちろんいい部分、悪



い部分、当然いろいろあり、歴史上さまざまに評価されていますけれども、本当に数字が示すように、千葉県が発展してきたことを実感できる5期20年だったのかなと思っております。

特筆すべき点としては、道路ネットワークの整備、県内の主要都市から県と千葉までを、道路を使って1時間で結ぶ「県都1時間構想」を推進することによって、要するに千葉県・千葉市だけの発展ではなく、「県土の均衡ある発展」を心がけていたのかなというふうに見ていました。先ほど、ご説明がありましたけれども、成田空港が開港し、その活用ですとか成田空港を核とする新産業三角構想の推進は、非常に行政運営の中でも柱になっていたと見ておりました。5期20年の沼田県政の後を継いだのが、厳しい選挙戦を戦い抜いて当選した堂本暁子知事でした。堂本知事は自民党政治とは「真逆」というと語弊はありますが、県の政策ががらりと変わったという部分がありました。

印象に残っていたのはやはり NPO活動の推進。ご本人が参議院議員のときに、NPO法案の成立に奔走したという、国会議員時代の経験を、今度は千葉県知事になって行政を運営する立場として、実際の中で NPO活動を特に今まで経験のなかった千葉県にどうやって根付かせるのか、どうやって発展させるのかというのをかなり見てきました。あと印象的なのは開発が続いていた、これはもちろん千葉県の発展には貢献していますが、その開発の象徴でもあった東京湾の「三番瀬埋め立て計画を白紙撤回」した上で、埋め立ては中止するということを表明し、その後三番瀬の再生計画を策定したというところです。あとは障害者差別禁止条例を制定しました。これもまた今につながるのですが、当時「男女共同参画条例」の策定を目指したのですが自民党といろいろありまして、制定できませんでした。今では全国で唯一、男女共同参画条例がない県となっておりますが、高橋課長が担当されています政策企画課で、多様性尊重条例が今まさに12月定例県議会に提案され、(可決・成立という) だいぶ結論が見えてきている段階にあると思っております。

その次は、森田健作知事になりました。森田知事はキャラクターもあるのですが、アクアラインの800円化を掲げて、1997年に開通したアクアライン通行料は普通車4000円で高いじゃないかということで利用が低迷していたのを、ここはもう安くして、とにかく使ってもらおうじゃないかというのを一番大きな公約とし、当選されました。当選後も国会議員時代の人脈とかも駆使し、800円化にかなり貢献できたのは、森田知事だったからできた部分は大きいと思っています。併せて森田知事というとオリンピック、パラリンピックの関係で、県内に8競技を誘致したっていうところも大きいと思っています。一宮町の釣ヶ崎海岸にサーフィン競技を誘致したのは、いい意味での千葉県のレガシーになって、今でもサーフィン会場、メッカという感じで一宮町、外房の地域が発展しているというところは、とてもいいレガシーだなと思っています。

あとは公約で移動交番、防犯ボックス設置等を進め、安全安心っていうところも森田知事は心がけて、前面に進めていたと見ておりました。その後、森田知事、若干、最後は(台風・豪雨被害への対応で) いろいろありました。そのいろいろあったのが当時、千葉市長だった熊谷市長が知事選に挑戦するきっかけになったと、ご本人も何度も振り返っていました。災害対策を最優先課題とし、「防災立県千葉」というところを一番の公約の柱にして戦いました。その選挙戦では県政ビジョンという公約を掲げ、当選後にはその県政ビジョンを基に県の中で、後ほど出てくると思うのですが、「県総合計画」を策定し、その総合計画



に基づいて今、千葉県が熊谷県政として推進されているという状況になっています。

あと熊谷知事を取材していて感じたのは、予算(事業へのお金の付け方)の考え方について、今までの事業から新しい物を「種まき」という表現を最初1年目は使っておりました。2年目にはその種まきの状況を見つつ、どこが成長してきたのかというところを「芽吹き」という表現を使っていました。これがどんどん花を開いて、広がっていくってことを多分、想定されていると見ておりました。こちらにも12月定例県議会が開会中ですが、多様性尊重条例案も提出されております。多分、成立した暁には、自民党も含めいろんなコメントが出てくるのではないかと考えております。

4人の知事がざっとどんな県づくりをしてきたのかというのを、県庁の中ではなく近い所の外で見ていて感じた部分を、お話させていただきました。これも熊谷知事が当選後に話していたのですが、知事が変わって政策的な転換はあるにしても、順調に県が発展していったのは、それを支えていた県職員が優秀だったということを知りました。それがこれまでも順調に県が発展してきた部分かなというふうには、近くで見て感じてはおります。

では、今後も住みたい千葉県、暮らしやすい千葉県となっていくには、何が問題なのかなという、有権者だろうが有権者でなかろうが「県民が千葉県政に関心を持ってもらうことが大事」だと思っております。

最後に議論する「結論」にもつながりますが、では県政に関心を持つにはどうしたらいいのかっていうのは私自身、政治部が長かったので「選挙に行くことによって関心が高まる」と考えています。関心が高まれば選挙にも行くという、この好循環が生まれるのではないかと考えています。われわれ報道の立場と、あと県の職員の方たちも「誰がいい」とか、「どの党がいい」と言える立場にはございません。公正で中立でなければならないので。ただわれわれ報道陣も、県の職員の方も言えるのは、「投票に行きましょう」ということだけは足並みをそろえて言えることなので。それだけはまた後で重ねて強く主張していきたいと思っております。以上です。

敬愛大学シンポジウム

千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日报社 編集局報道部長 伊澤敏和

## 第1部 千葉県150年の発展の軌跡①

### その1、千葉県の発展をリードした・する知事

- ・1999(平成11)年に政治部に配属し、千葉県政を担当するなど一貫して編集局報道記者として活動
- ・柏支局、国会担当、船橋・習志野支局などを歴任し、再び千葉県政を担当
- ・連続ではないものの、沼田武知事、堂本暁子知事、森田健作知事、熊谷俊人知事と、千葉県の発展をリードした・する4代の知事を取材した数少ない記者



敬愛大学シンポジウム  
 千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
 千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

### 第1部 千葉県150年の発展の軌跡②

▷沼田武知事＝インフラ整備を加速（新産業三角構想など）

【1981（昭和56）年4月5日～2001（平成13）年4月4日】

- ・昭和から平成にかけての5期20年
- ・道路ネットワークを整備
  - 県内主要都市から県都・千葉市まで道路を使って1時間で到着できる「県都1時間構想」の促進
- ・1978（昭和53）年に開港した成田空港の活用
- ・「成田空港」「幕張新都心」「かずさアカデミアパーク」を核とした新産業三角構想の推進

2

敬愛大学シンポジウム  
 千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
 千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

### 第1部 千葉県150年の発展の軌跡③

▷堂本暁子知事＝NPO活動を推進、三番瀬埋め立て中止

【2001（平成13）年4月5日～2009（平成21）年4月4日】

- ・インフラ整備が落ち着いた後の2期8年
- ・参院議員時代に「NPO法案」の成立に貢献し、地方自治の現場にNPO活動を導入するよう尽力
- ・必要な道路ネットワーク整備を進める一方で、環境保護活動に注力。東京湾・三番瀬（浦安・市川・船橋）の埋め立て計画を白紙撤回。埋め立てを中止し、「三番瀬再生計画」を策定
- ・全国初の「障害者差別禁止条例」制定
- ・男女共同参画条例は自民の反発で制定できず（全国で唯一）

3

敬愛大学シンポジウム  
 千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
 千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

### 第1部 千葉県150年の発展の軌跡④

▷森田健作知事＝アクアライン800円化

【2009（平成21）年4月5日～2021（令和3）年4月4日】

- ・平成から令和にかけての3期12年
- ・1997（平成9）年に開通した東京湾アクアラインは当初、普通車4千円と割高で利用低迷。「800円化」を掲げ、当選後に実現
- ・アクアラインマラソンも2012年に初開催。2020年東京オリ・パラ（コロナで21年に延期）は県内8競技を誘致
  - 一宮町釣ヶ崎海岸でオリンピック史上初となるサーフィンを開催
- ・公約の移動交番車導入、防犯ボックス設置も実現

4



敬愛大学シンポジウム  
千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

## 第1部 千葉県150年の発展の軌跡⑤

▷熊谷俊人知事＝「災害対策」を最優先、コロナ対策に尽力

【2021（令和3）年4月5日～ 現在】

- ・千葉市長3期11年半を経て、知事1期目（2年8カ月）
- ・就任直後からコロナ対策に注力。感染防止対策を講じた飲食店を優遇する「認証制度」を導入するなど独自政策も
- ・コロナ禍の中での東京オリ・パラでは、感染防止対策を重視してほぼ無観客で開催
- ・県政運営の最上位計画「千葉県総合計画」を策定
- ・県当初予算に「成長へ種まき・芽吹き」を狙い新規事業を計上
- ・現在開会中の12月定例県議会に「多様性尊重条例案」提出

5

敬愛大学シンポジウム  
千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

## 第1部 千葉県150年の発展の軌跡⑥

その2、時代に即した県政運営

- ・歴代知事が中心となり、優秀な県職員が支えたこれまでの県政運営で、課題はあるものの、首都・東京に近い立地を生かし「日本の中における千葉県」としては順調に発展している
- ・今後も「住みたい千葉県」「暮らしやすい千葉県」をつくっていくには、県民が県政に関心を持つことが重要
- ・県政（政治）に関心を持つためにも、選挙に行こう！  
→特定の人への投票を求めたり、投票しないよう呼びかけたりはできないが、県職員も報道機関も「投票に行こう！」と勧めることはできる

6

**織井** 伊澤部長さん、ありがとうございました。それでは続きまして、ちばぎん総研の小高部長さん、お願いいたします。

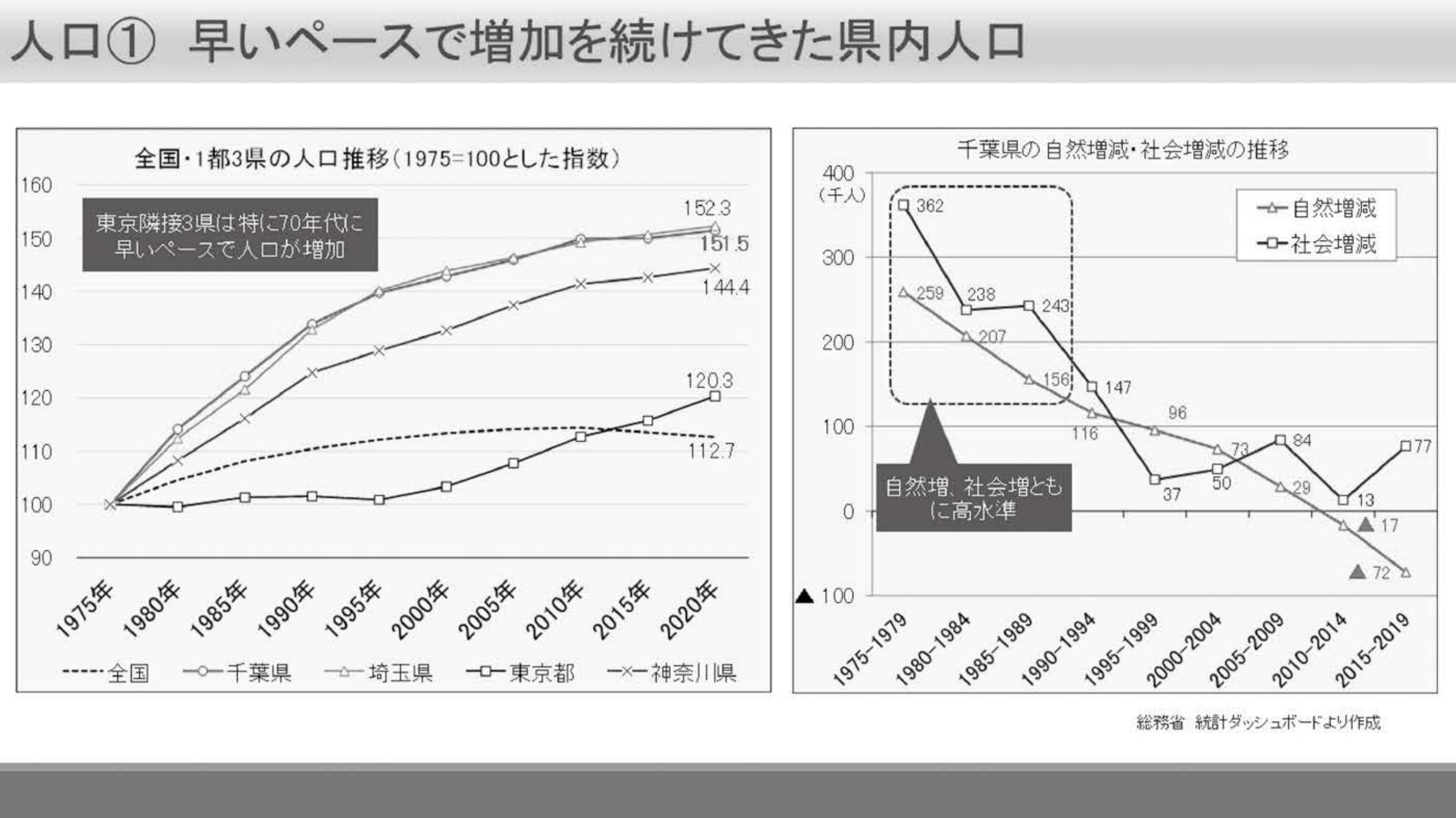
**小高** 先ほど織井所長さまから、千葉県の150年の発展の歴史について非常に多角的かつ簡潔にお話しいただきましたので、あまり話すことが残ってないのですが、主に私からは人口推移、それから産業構造という二つの面から、特徴的なところをいくつかお話しさせていただければと思います。

まず左側のグラフですが、これは全国と首都圏、1都3県の人口推移を、1975年を100として指数で表したものでございます。ご覧のとおりなのですが、東京に隣接している神奈川県、埼玉県、千葉県、この3県については増加のペースが、黒い点線で表しております全国の増加ペースを大きく上回っていることがご確認いただけるのではないかと思います。右側のグラフです



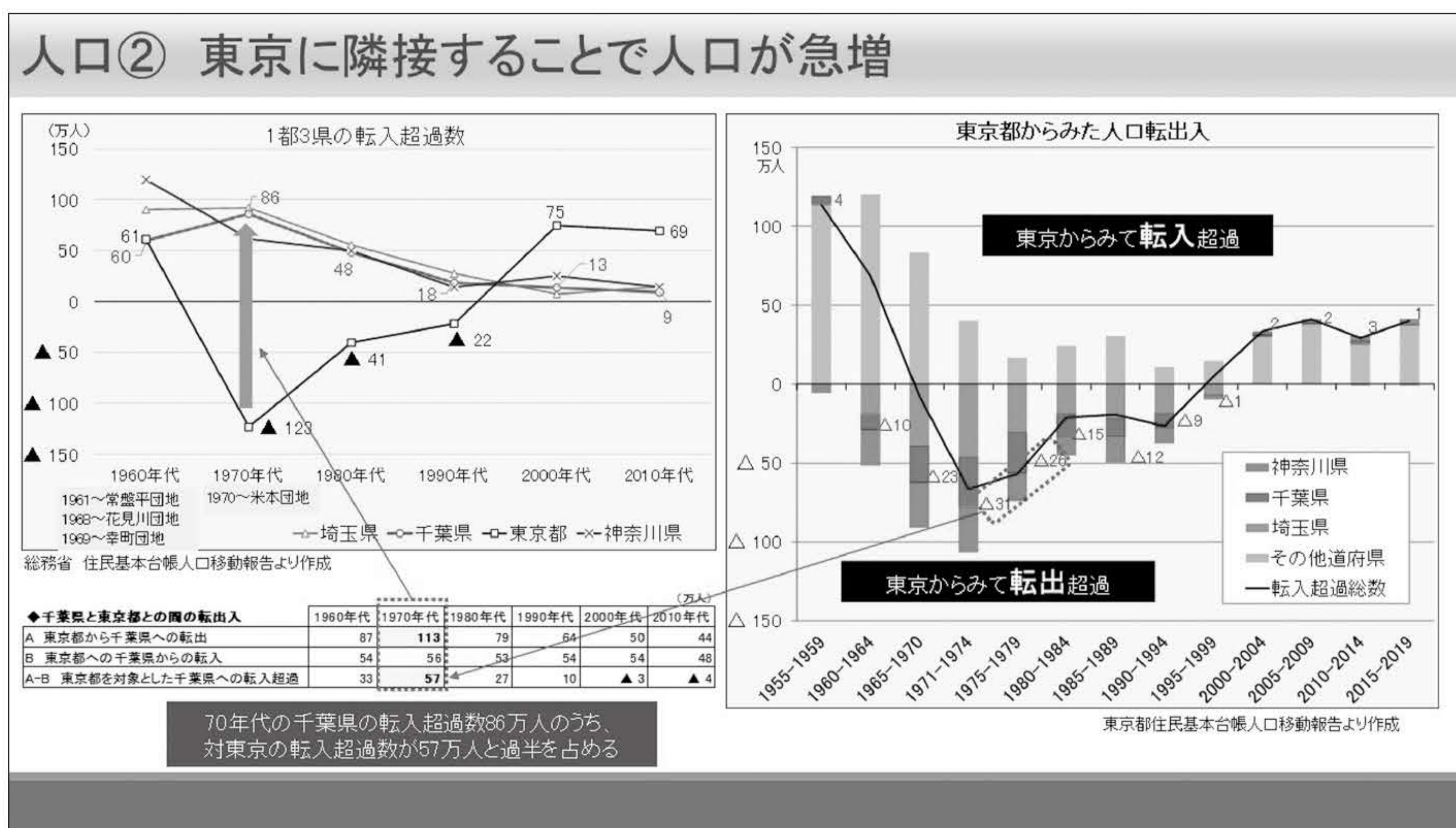
【小高 正浩 氏】





けれども、こちらは千葉県につきまして、人口の増減を自然増減と社会増減に分けて表したものでございます。自然増減というのは、出生数から死亡数を引いた自然増、社会増減というのは県外からの転入から県外への転出を差し引いたものでございます。

グラフを見ていただくと分かると思うのですが、自然増、社会増いずれも1970年代から80年代にかけて、非常に高い水準で千葉県は推移しています。その1970年代における千葉県の大幅な社会増の部分につきまして、次のスライドで見ていただければと思います。



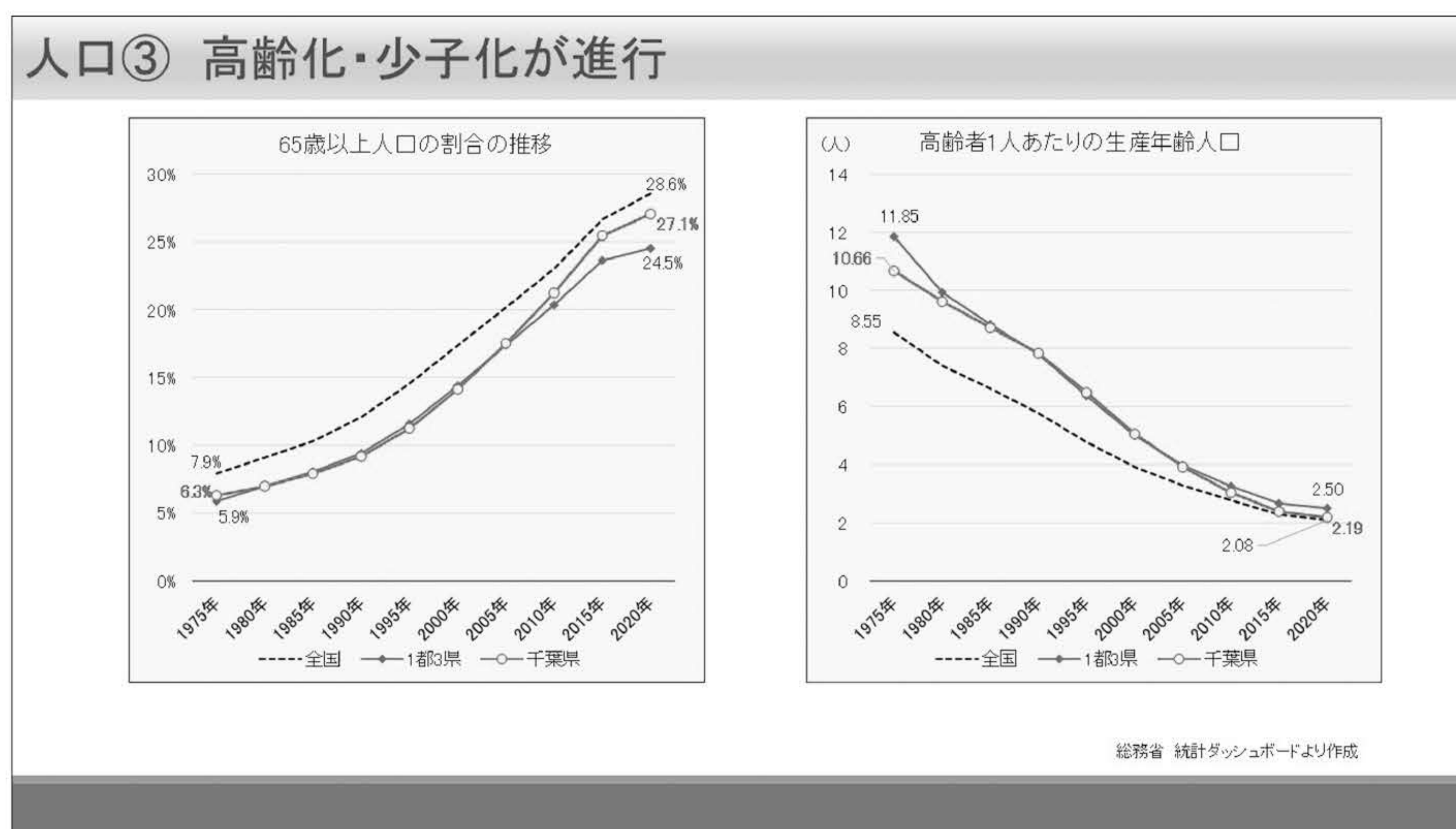
その社会増の大部分は実は東京都から千葉県への人の流れでして、そのことを表したものが、この二つのグラフになります。まず左側のグラフですけれども、こちらは1都3県の転入超過数、つまり転入から転出を引いたものですが、これを見ますと1970年代の東京は123万人の転出の超過、人が出て行ってしまったほうが多かったということです。一方で隣接の3県は大幅な転入超過、千葉県につきましても86万人の転入超過となっております。

この時期の動きを東京都から見たグラフが右側になります。緑色の埼玉県、赤色の千葉県、それから青色は神奈川県なのですが、隣接3県に対する人の出入りにつきましては、特に1970年代に東京都は大幅な転出超過、隣接3県に人が流れてしまったということです。対千



千葉県で見ますと、1970年代前半が31万人の転出超過、後半が26万人の転出超過、70年代を通して見ますと合計57万人の転出超過となっております。これは同じ期間の千葉県の転入超過、また左側のグラフになりますが、1970年代に86万人の転入超過となっておりますけれども、東京とのやりとりがその7割を占めているという結果です。つまり高度成長期の終わりの頃から、いわゆる人口ドーナツ化現象というものが広がり、これに伴い東京から隣接県への人口移動というのが顕著になりまして、そのことが千葉県の人口増加に大きく寄与したということが分かります。

人口増加についてもう一つトピックスとしまして、次のスライドで高齢化について触れたいと思います。

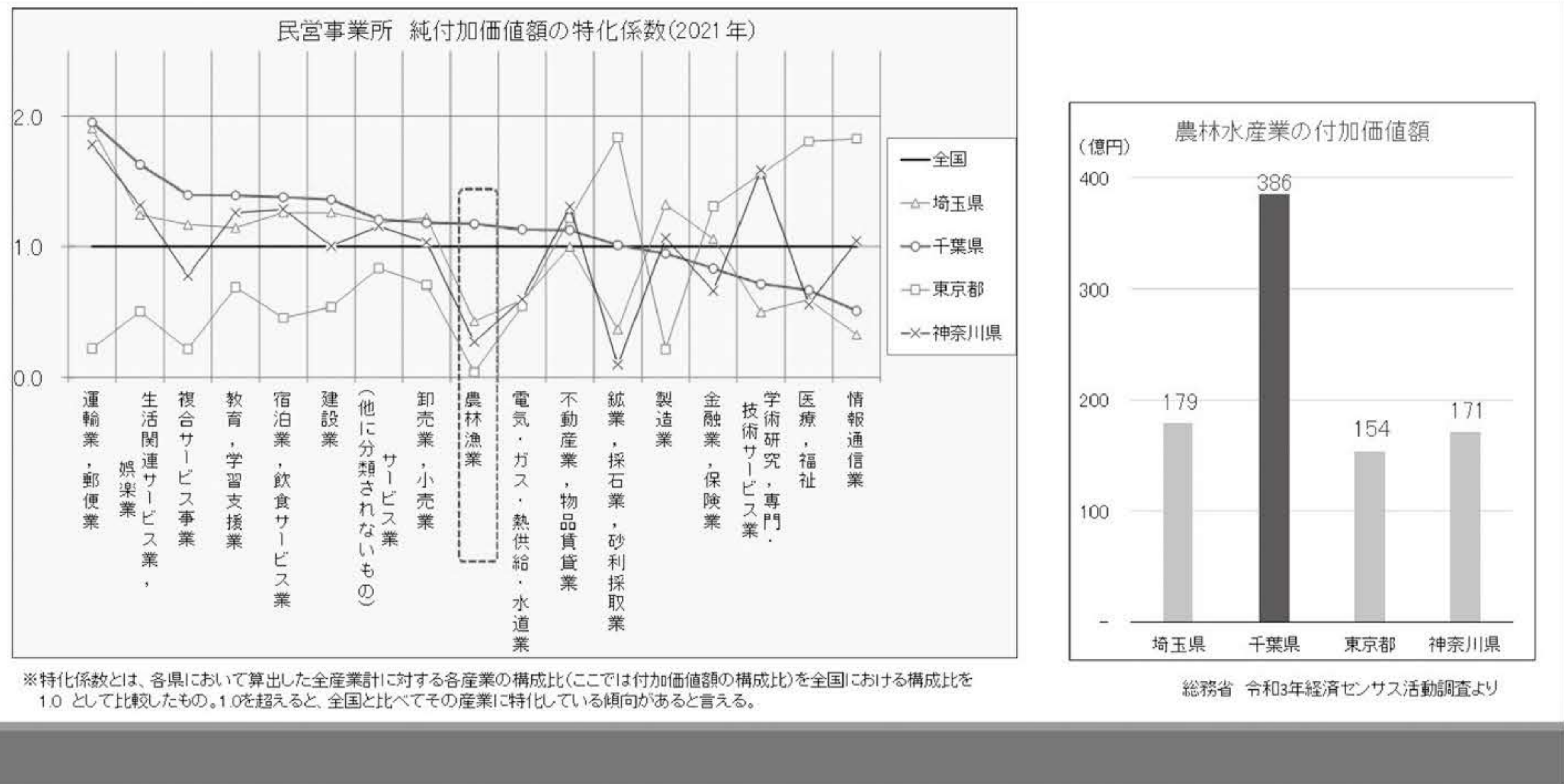


左側のグラフは65歳以上の人口割合の推移を、全国、1都3県、千葉県この三つで表したものです。若い世代が多かった1都3県で、高齢者人口割合はこれまで一貫して全国の水準を下回ってきました。千葉県もそうだったのですが、これが2010年代になりますと、千葉県は1都3県の動きよりも、どちらかというとな国のレベルに近づきつつあるということが言えると思います。背景としましては、人口ドーナツ化の時期に県内に流入した、いわゆる団塊世代という世代が65歳以上となったということ、それから近年、若い世代の間では都心回帰の動きが進んでいるということ、こういったさまざまな要因が考えられると思います。同時に進んでいるもう一つの動きは少子化です。生産年齢人口の減少が今、大きな社会問題となっております。その結果としまして右のグラフですが、高齢者1人を支える現役世代の人口が、1975年には10人ほどであったのが、ここにきて2人台前半ということで、生産年齢人口、現役世代の働き盛りの世代の割合が減ってきているということが言えるかと思えます。

続きまして産業面についても、いくつか述べさせていただきたいと思えます。



## 産業① 首都圏にあって1次産業に強み

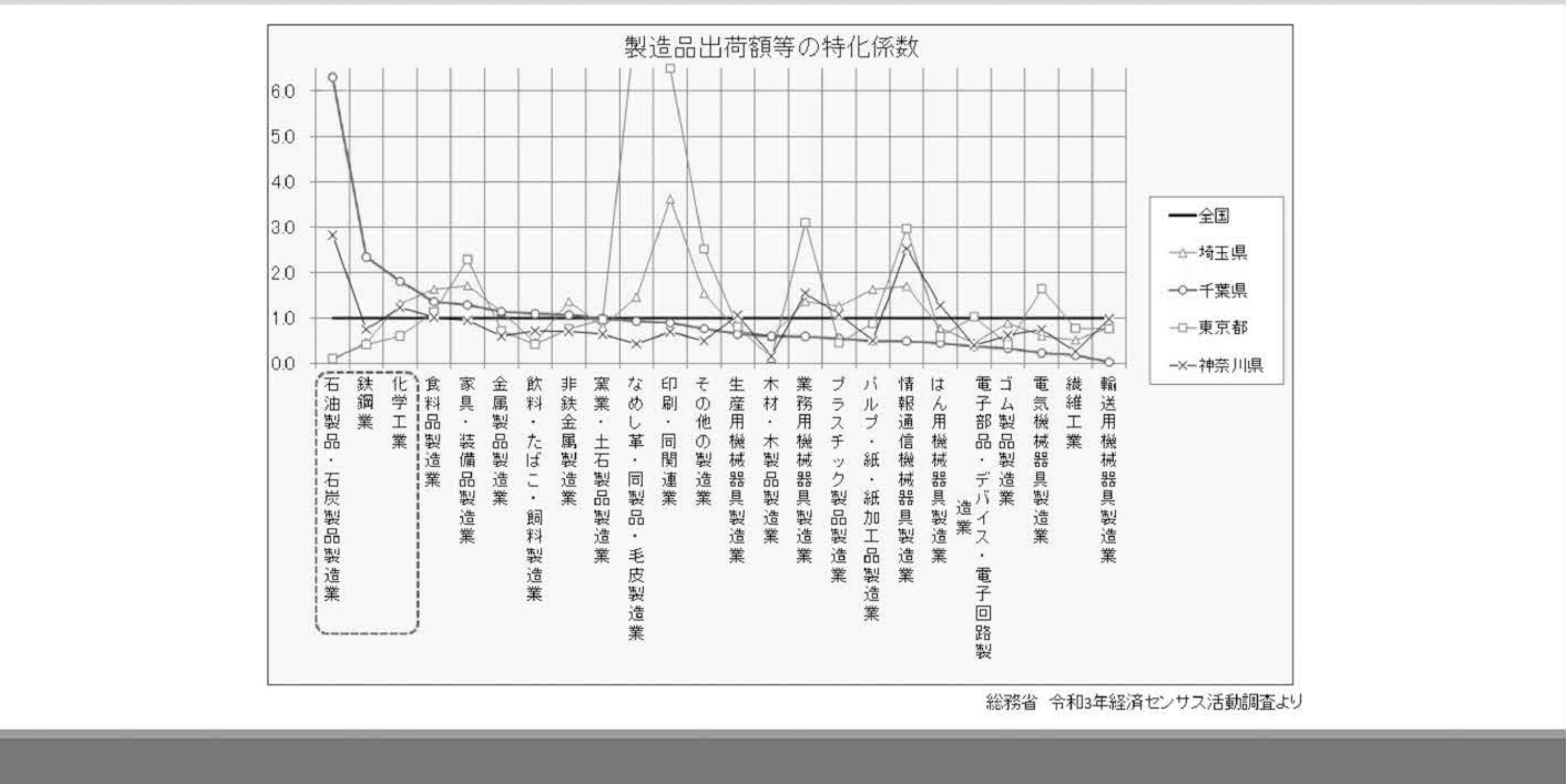


このスライドは、産業の種類ごとに付加価値額を1都3県で比較してみたものです。比較の方法としまして今回は特化係数を使ってみました。特化係数というのは各県の、ある産業の付加価値額の産業全体に占める構成比を全国平均を1.0としたときにどのくらいあるかという物を表したものです。つまり1.0を超えると全国平均と比べて、その産業に特化しているということが言えるという指数です。このグラフを見ていただきますと、千葉県の特化係数の大きい順に産業を左から並べているのですが、千葉県で一番特化係数が大きいのが「運輸業 郵便業」となっていて、その後、右のほうにだんだん小さくなっていく並びになっていますけれども、今回特に注目いただきたいのは農林漁業の特化係数です。

赤く四角で囲っているところですが、こちらを見ますと首都圏を構成している1都3県の中で、唯一、1.0を上回っているのが千葉県です。先ほど織井所長さまからも、千葉県が農業大県ということでお話しいただきましたけれども、まさにこういったところに数値として表れていると思います。右側のグラフは付加価値額の実数を1都3県で比較したのですが、千葉県が断トツでございまして、農林水産業に強い千葉県の姿というのが、こちらからも見て取れるかと思えます。

次のスライドで今度は千葉県の製造業について表現してみました。

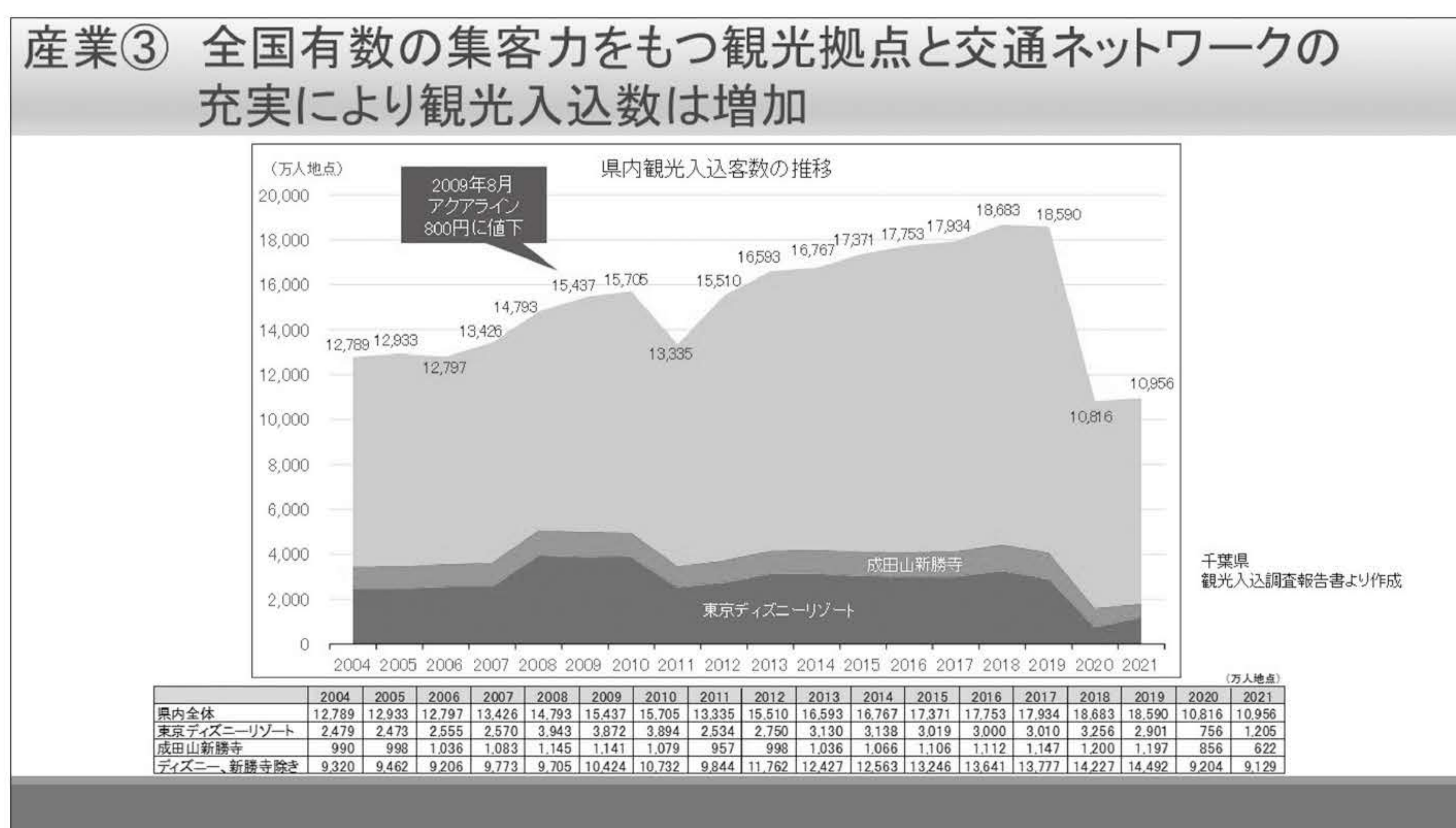
## 産業② 製造業は重化学工業の比重が高い





製造業の中にもいろいろな各業種があるわけですが、その業種ごとの製造品出荷額の特化係数を表してみました。千葉県の特化係数の大きい業種順に、左からまた並べていまして、見てのとおり石油関係、鉄鋼、化学、こういったところの特化係数が大きくなっているのを見て取れるかと思います。こちらは織井所長さまからもお話しがありましたとおり、全国有数の規模を誇る京葉臨海工業地域の特色というのが、如実に表れていると思います。

最後に次のスライドで、千葉県は観光立県を標榜しておりますけれども、その観光動向について触れさせていただければと思います。



このグラフは県内の観光客数の推移を表したものでございます。2011年、それから近年ちょっと落ち込みがありますが、これはお察しのとおり、東日本大震災とコロナ禍の影響が出ているというところですが、その落ち込みを除きますと、基調的には増加をたどっているということが分かります。最も多くの観光客を集めているのが、ご存じ東京ディズニーリゾート、そして次に成田山新勝寺という順番になっておりますけれども、それ以外の黄色の部分、こちらも堅調に観光客を伸ばしてきていることが分かります。この背景には県内に存在する非常に多彩で魅力ある観光資源があることはもちろんですけれども、それ以外に県内各地の観光振興に向けた取り組み、それから先ほど話がありましたけれども、観光地へのアクセスを支える交通インフラが非常に充実してきたというところが、大きく貢献していると思います。以上、人口と産業について、目で見える形で表現させていただきました。

**織井** 小高部長さん、ありがとうございます。第1部のご議論、本当に貴重な情報をご提供いただきました。振り返ってみますと、千葉県の高橋課長さんからは、特に1983年制定の千葉新産業三角構想について、その重要性をご指摘いただいたかと思っております。それから千葉日報社の伊澤部長さんからは、1980年代以降の現在に至るまでの、4人の知事さんの時代について、その特徴をご説明いただきまして、大変参考になりました。特に最後の選挙、県政に関心を持つということが、これからの、千葉県の発展のためにも一つ重要ではないかということを確認した次第です。それから、ちばぎん総研さんの小高部長さんからは、



詳しい人口と産業のデータを提供いただきました。特に東京に隣接することで、ベッドタウンとしての人口増加の様子が大変よく分かりましたし、また産業ごとの全国平均と比べての特徴も、数字で裏付けていただきました。また最後の観光の所でございますけれども、千葉県の観光と申しますと東京ディズニーランド、それから成田山新勝寺というイメージが強いんですけれども、どうでしょうか、大体この二つで3割程度ということでございますので、意外にその他の観光施設が貢献しているということが分かるかなという感じでございます。以上、第1部のご議論、大変ありがとうございました。

## これからの展望と課題

**織井** それでは引き続き、第2部の議論に移らせていただきたいと思います。第2部のテーマは「これからの展望と課題」でございます。第2部では、初めに千葉県の高橋課長さんより現行の「千葉県総合計画」のポイントをご解説いただきたいと思います。この県の総合計画と申しますのは、私の理解が正しければなんですが、県政の運営の基本となる中長期の計画でございます。県はこの計画に基づいて各施策、政策を推進くださっています。現在の総合計画は2022年3月の決定、現在の知事さんが就任されてからの決定でございます。2022年度(昨年度)から実施に入っております。第2部として千葉県のこれからの考えるときに、この総合計画に盛り込まれた諸課題から考えていくことが、一つの出発点になるかと思えます。それでは千葉県の高橋課長さんに、この総合計画のポイントについて、ご解説をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**高橋** それでは千葉県総合計画について、解説をさせていただきたいと思います。資料をご覧ください。千葉県総合計画について、資料の表紙に総合計画のイラストを掲載していますが、これは今の千葉の姿をイメージしたイラストになっております。次のページに本日の説明内容ということで、まず総合計画とは何かということをご説明させていただき、県を取り巻く環境の変化と課題、それから千葉県の目指す姿、千葉県の主な取り組みという形で、総合計画の構成順に従いまして簡単ではありますが、ご説明をさせていただきたいと思います。

資料2ページに、総合計画とは何かということで記載してございますけれども、先ほど織井所長からもご紹介ございましたように、現在の総合計画は、2022年3月に策定されました。熊谷知事の就任が2021年4月ということで、就任後1年かけて総合計画を策定し、2022年4月から3カ年計画ということで実施計画編を策定しました。これは知事の任期に合わせた形になっているところです。総合計画は県政運営の基本となるものでありまして、政策の基本的な方向を総合的・体系的にまとめた、県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画という位置付けになっています。また、県民とともに取り組んでいくための道しるべという言い方もしております。

構成は、基本構想編と実施計画編の2部構成になっていまして、この基本構想編は計画期間が10年、実施計画編はその10年のうちの最初の3年間という位置付けになっています。

基本構想編では、6つの基本目標を設けていまして、10年後の千葉県の目指す姿をお示しする形になっております。



実施計画編につきましては3年間の計画で、その6つの基本目標を実現するために、重点的に取り組む政策や施策を体系的に3年分、整理をしている構成になっています。

資料3ページ、千葉県を取り巻く環境の変化と課題ということで基本構想編に記載をしており、課題ばかりですが11項目に整理してあります。

例えば、感染症・災害等リスクの増大への対応については、新型コロナウイルス感染症の経験を経て、感染症ですとか、あるいは台風をはじめとした災害の激甚化など、リスクが増大しているところへの対応ですとか、人口減少や少子高齢化への対応をどうしていくのか、あるいは半島性の克服と活用ということで、これは先ほどご紹介をした新産業三角構想の時代から半島性を克服していこうというのが、千葉県の大きな課題の1つだったようなことがあります。また、デジタル社会の推進やSDGsの推進といった、今の時代に合わせたような環境の変化も挙げているところです。

資料4ページですが、これらの様々な課題や環境の変化を踏まえながら、千葉県が目指す姿として基本理念と基本目標を6つの項目にまとめたところです。

先ほどの課題や環境の変化に合わせた形で6つの基本目標を掲げており、取組を進めていく上で『～千葉の未来を切り開く～「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現』という基本理念を掲げております。この基本理念には、豊かな自然と文化、あるいは優れた都市機能を持っている千葉で、全ての県民の皆様が自分自身のライフスタイルを実現し、生きる価値・働く価値を感じられる千葉の未来を創造していく、といったような考えを県民の皆様と共有していきたいということで、この基本理念を掲げさせていただいています。

この基本理念を実現していくため、基本目標を6つの項目に分けて、どのような取組を進めていくかということに記載しています。

ここまでが基本構想編の説明となります。詳しくは県のホームページに載っているので、ご覧いただければと思いますが、ここから先はその中からいくつかの政策・施策をピックアップしてご紹介したいと思います。

まず1つ目が、資料5ページ、道路ネットワークの整備と新たな産業・地域づくりです。資料の地図のとおり、本県ではいくつかの道路整備が進んでおり、ずっと昔から整備を進めてきていた道路がだいぶ完成に近づいてきているタイミングになってきています。

その1つが圏央道で、地図上の赤い線で成田空港から木更津の方に向かっている道路です。これが現在ほとんど開通しましたが、未開通区間が成田空港のすぐ横の点線の箇所の大栄ジャンクションと松尾横芝インターチェンジ間となっており、2026年度に開通予定と完成が見えてきたところでございます。圏央道の県内区間が全線開通することで、木更津側はアクアラインにつながっておりますので、川崎市側に抜けていくことができ、また、茨城県側は埼玉県の方にも抜けて東北道等に接続するなど、東京湾アクアラインと一体となって東日本と西日本を結ぶ大動脈の一つになっていくこととなります。

これによって、千葉県は半島であるが故に、どん詰まりになっていましたが、これが大きな広域交通網の一つとなって、人や物の更なる流れが生じ、半島性の解消が期待されます。

それからもう一つが北千葉道路で、地図上の緑線になっている所です。外環道と成田空港を最短で結ぶような計画になっていまして、計画延長で約43キロとなっています。真ん中辺りなど完成している部分もありますが、点線の箇所が未開通となっております。この道路が完成し、成田空港と外環道・首都圏がつながることによって、緊急時の輸送路として



も活用することができるような重要な機能を持つ道路になっています。

あと、アクアラインですけれども、森田知事の時代に社会実験として料金を800円に引き下げ、それまで通行量が少なかったものが大変増え、渋滞が激しくなりました。そこで、2023年7月から2024年3月までの土日・祝日に限り時間帯別料金の社会実験を行っているところです。800円だったものを通行量の少ない夜20時から24時は料金を600円に、通行量の多い13時から20時は料金を1,200円とし、時間帯別で料金変動することによって渋滞を緩和させる社会実験を行っているところでございます。

こういった形で道路ネットワークの整備を進めていきながら、より良いネットワークとし、産業・地域づくりの基盤にしていくものでございます。

続きまして、資料6ページの成田空港の更なる機能強化について、成田空港は2028年度末に滑走路が新設されるということもあって、更なる機能強化を進めているところです。

また、2023年3月に成田国際空港株式会社から新しい成田空港構想の中間取りまとめが公表され、その中で、例えば、今いくつかに分かれている旅客ターミナルをワンターミナル化することや、あるいは貨物地区についても再編するといったような、成田空港の将来の姿を描く構想が発表されました。この更なる機能強化が進み年間発着数が50万回になると、旅客数が4,000万人から7,500万人に、貨物量についても年間約200万トンが約300万トンに、従業員数も約4万3,000人が約7万人になるということで、大きな空港になっていくタイミングになっています。

そのため、これを支えるような周辺の機能が必要だろうということで、県といたしましても、今、成田空港と一緒に取組を進めていくことを考えているところです。例えば、成田空港の周辺地域は農地が多いのですけれども、物流機能が更に必要だろうということで、地域未来投資促進法という法律を活用して、特例で物流施設を成田空港の近くに整備するときに、例外的に農地を転用して事業用地にできるよう国と交渉しているところでございます。一部、認められたところもあり、グッドマングループやヒューリックといった世界的な物流企業が立地を表明するなど、取組が進んできているところです。

また、先ほども申し上げましたが、物流施設に限らず、大きな国際的な産業拠点になり得る可能性のある地域だと考えているところです。

それから、もう一つご紹介をしたいのは、資料7ページの洋上風力発電ですけれども、日本は本当にエネルギー自給率が低いところで、火力についても LNGを海外から輸入をして発電している状況ですが、天然資源を活用した発電として今後の可能性があるものが洋上風力発電です。今、陸上風力発電はかなり進んでいますが、だんだん陸上には建設できる余地が少なくなっているため、海上を使って洋上風力発電を進めていこうとしているところです。

国で制度が整備されまして、千葉県内についても銚子市沖、いすみ市沖と九十九里沖の3カ所で手続きが進められているところです。

銚子市沖については、2028年9月の運転開始を予定していて、着実に進めていると聞いております。それから、いすみ市沖や九十九里沖については、国の制度上の有望な区域となっていますが、ここも地元と協議が進んでいるところです。洋上風力発電は天然資源を活用することから環境保全に資するもので、また洋上風力発電の関連産業というのは、裾野の広い産業だといわれておりまして、こういった関連産業の集積とかメンテナンス人材の育



成、あるいは観光振興にも資するという一方で、環境保全と経済成長の好循環を創出していききたいということで、進めているところです。

次に、資料8ページの子育て施策です。保育の質の充実ということで、県内には保育所や幼稚園が多くあり、こちら千葉敬愛学園の卒業生の皆様にも県内の保育所や幼稚園に勤務されていると思います。保育の分野についても県として積極的に取組を進めていくということで、自然体験活動を通じて子どもの主体性や創造性等を育む「自然環境保育」に取り組む施設・団体などを県が認証する千葉県自然環境保育認証制度を創設しています。この制度は今年度から始めていて、11月1日時点で76団体を認証したところです。

また、保育所の遊びを通じて数や図形への関心を持ってもらおうということで、そういう専門的な知見を持っていらっしゃるアドバイザーを派遣する事業も進めているところです。

あと県と市町村を構成員とした千葉県少子化対策協議会を設置して、地域みんなで少子化について一緒に考えていくような取組を進めているところです。

最後に資料9ページ、文化・芸術の振興について、今日の企画もこの一環ですが、今年、千葉県は誕生して150周年でございます。記念すべき年ということで、今年の6月から来年の6月までの1年間、県内各地でいろんな記念行事をやっているところで、県はもちろんのこと、地域の市町村ですとか民間の皆様など、様々な方々に150周年記念事業ということで、いろんな取り組みをやっていただいているところです。

それから本県の海の魅力を発信しようということで、千葉大学と連携をしまして、資料右側にありますが、シンボルカラーの選定と千の波を有する県という意味を込めた『千波県』とのブランドデザインの作成をお願いしました。

このデザインについては、千葉大学の学生が県内のあちこちでフィールドワークを行って、外房の海の色とか、内房の海の色とかをイメージしながら作ったデザインだと聞いております。海からの恵みを象徴する魚と、それから海と人をつなぐ波をモチーフとして作ったデザインでございます。

このように総合計画の実施計画編には、様々な取り組みについて記載されておまして、県としては全庁を挙げて、いろんな部署が様々な取り組みをしているところでございます。私からは以上でございます。ありがとうございます。

## 千葉県総合計画について

2023年12月10日

敬愛大学総合地域研究所シンポジウム





## 本日の内容

1. 総合計画とは
2. 千葉県を取り巻く環境の変化と課題
3. 千葉県の目指す姿
4. 千葉県の主な取組



1

## 千葉県総合計画 ～新しい千葉の時代を切り開く～

### 総合計画とは

- ・ 県政運営の基本となるもの
- ・ 県政全般に関する最上位の  
基本的かつ総合的な計画

### 構成と期間

- ・ 基本構想編（計画期間：10年）
- ・ 実施計画編（計画期間：2022年度～2024年度）



2

～基本構想編～

## 千葉県を取り巻く環境の変化と課題

計画の策定に当たって把握すべき環境の変化と課題を11項目に整理

感染症・災害等リスクの増大への対応

くらしの安全・安心の確保

人口減少・少子高齢化への対応

社会経済情勢の変化への対応

半島性の克服と活用

医療・福祉ニーズの増加と  
健康志向の高まりへの対応

環境保全・持続可能な社会づくり

価値観・ライフスタイルの  
多様化への対応

デジタル社会の推進

SDGsの推進

行財政改革の推進

3



# 千葉県が目指す姿

## 【基本理念】

～千葉の未来を切り開く～

「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

## 【基本目標】

<b>基本目標Ⅰ</b> 危機管理体制の構築と安全の確保	<b>基本目標Ⅳ</b> 子どもの可能性を広げる千葉の確立
<b>基本目標Ⅱ</b> 千葉経済圏の確立と社会資本の整備	<b>基本目標Ⅴ</b> 誰もがその人らしく生きる・ 分かり合える社会の実現
<b>基本目標Ⅲ</b> 未来を支える医療・福祉の充実	<b>基本目標Ⅵ</b> 独自の自然・文化を生かした 魅力ある千葉の創造

# 道路ネットワークの整備と 新たな産業・地域づくり



- 道路ネットワークの整備**
  - ・圏央道や北千葉道路で整備促進中
  - ・アクアラインの更なる効果の発揮
- 新たな産業・地域づくり**
  - ・本県のポテンシャルを活かし、
  - ・将来を見据えた産業誘致・創出
  - ・に向けた方策を検討

# 成田空港の更なる機能強化

成田空港は「第二の開港」ともいえる  
歴史的なフェーズを迎えている

更なる機能強化の効果 (年間発着回数50万回到達時)	
・旅客数	約4,000万人 ⇒ 約7,500万人
・貨物量	約200万トン ⇒ 約300万トン
・従業員数	約4.3万人 ⇒ 約7万人

▶ **千葉県の成長発展の絶好の機会**



## 洋上風力発電の導入促進

再エネ海域利用法に基づき

銚子市沖、いすみ市沖、九十九里沖で導入に向けた検討が進む



ウインドファーム(オランダ)

出所:資源エネルギー庁HP

### 銚子市沖

- ・発電事業者:千葉銚子オフショアウインド合同会社
- ・想定発電出力:403MW(13MW×31基)
- ・運転開始予定:2028年9月

### いすみ市沖

当該海域が「有望な区域」として国から選定(2021.9)

### 九十九里沖

当該海域が「有望な区域」として国から選定(2022.9)

▶ 環境保全と経済成長の好循環へ

## 子育て施策の充実

### 保育の質の充実

#### ○自然保育推進事業

自然保育に取り組む団体の活動を  
支援する認証制度を創設

#### ○保育アドバイザー派遣事業

保育所等に専門的な知見を有する  
アドバイザーを派遣



### 地域少子化対策

地域における少子化対策を効果的に取り組むため

少子化対策協議会を設置

## 文化・芸術の振興に関する取組



### 千葉県誕生150周年!

今年は千葉県誕生150周年の記念すべき年!

▶ 来年6月まで県内各地で  
記念行事を開催中!



千葉県誕生150周年記念ホームページQR

### 海の魅力の充実・強化

大学と連携し「千葉の海」をPRする

千葉のブランドデザインなどを作成





**織井** 高橋課長さん、どうもありがとうございました。この分厚い総合計画なんですけれども、特に実施計画のほうはポイントを選んで、分かりやすいものをご説明いただきました。ありがとうございました。続きまして、千葉日報社の伊澤部長さん、よろしく願いいたします。

**伊澤** 千葉日報、伊澤です。ご説明、ありがとうございました。今、織井所長がおっしゃった分厚い千葉県の計画、持ってきました。本当に分厚いのですが、県の最上位の計画ということで、全てを網羅しています。大事な所は何かといたら、「全部大事」で、まずは県総合計画に（施策や事業を）落とし込む。この落とし込むベースになったのが、実は知事選の時に熊谷候補が掲げていた「県政ビジョン」です。少しリニューアルしながら総合計画に作り上げていったというのが、今回持ってきた物です。概要版という、こういうコンパクトなものもありますので、皆さんがた、ぜひ一度、こんな分厚い物はなかなかという方でも、概要版、薄いので、本当にコンパクトに作り上げて、入手可能なので、一回、見ていただくとイメージが湧くのかなと思います。

県政担当だったので、熊谷知事が当選後にこの総合計画を策定する過程を、取材しておりました。2年前の8月の紙面、コンパクトなのですが、骨子案が出た時は知事が掲げていた危機管理とかその辺が前面に出てきたのかなということで、見出しは「危機管理体制構築へ」としました。その後、その年のうちにどんどん議論が進み、11月に紙面に載せた時に「SDGs推進強調」という見出しにしました。この計画を策定する間にも議論がいろいろ出て、その当時、必要な観点をどんどん盛り込んでいくという、策定する過程を見ていました。何が言いたいのかというと、その1年の間でいろいろ議論をしている間でもどんどん動きがあったということです。例えばそのSDGs、当時は今ほど浸透してなかったもので、この言葉自体、一部の人は「エスディージーエス」と読む人もいたぐらいの状況だった時に、計画に入れようと協議、議論していったのを見ていました。

今回の資料に掲げさせていただきました、2枚目ですが、今、時代が生成AI、人工知能の速度が本当に加速度的に進んでいるというのがあるってのがあって、この総合計画の中でも、先ほど課長もお話されたデジタル社会の推進という項目があって、そこでAIについて取り入れていこうという表記が入っています。ただこの計画を作った段階からも、またさらに進んでいるっていうのは今の社会の状況だと思いますので、AIがさらに進化して社会が大きく変わっていく中で、先行きが不透明ですが、AIとかそういう社会に対応できる能力を身に付けていくのは大事なんじゃないかと。計画もどんどん更新されていくところもあると思いますし、これに対応する組織なり個人なり、強みっていうのを持っていかなければならない。それに対応しながら強みが発揮できれば、能力を発揮できる社会に、そういう適応した人材を育成することも可能なんじゃないかなっていうふうには考えております。

あと、この総合計画の中にも人口推計、先ほど小高さんからいろいろと人口についてもデータとかも提供もありましたけれども、この総合計画の中では2020年に628万4000人をピークに減少傾向になるっていうデータが掲載されております。19ページ目です。2060年の推計が514万8000人という形で、見通しとしては人口が減っていくっていうのは今、避けられない状況なのかなというふうに、捉えていくしかないかなと。その中で都市に集中し郡部は過疎化するような二極化が全国だけじゃなく、千葉県でも進んでいく。課題は、どこ



でも働く場所をつくりながら労働力を確保し、持続可能な社会を維持していかなければならないというところが、大きな課題かと思っています。

それに関係して、現在、鉄道問題の中で、JRの久留里線問題が浮上し、久留里線の今後の在り方や維持などをどのようにしていくのかという議論が、今まさに進んでいるところです。これはその地域だけの過疎化とかの問題ではなくて、他の地域も同じような問題があるだろうと考えていますので、局地的なその場所限りの課題ではなく、過疎地域がどのようにその問題に向き合うのか、それに対応していくのかというのは大事な視点だと思っています。県で進められています、県の地方創生総合戦略っていうのが、まさに高橋課長が担当している部署ですが、第2期計画が今動いており、まさに今新しい第3期の計画への議論がちょうど始まっていて、きょういらっしゃっている県の職員の方が担当されていると聞いております。

この中でも視点として、人口が減少する社会というのを、これは前提として受け止めて、その中で持続可能なまちづくりをしていこうというふうに掲げています。人口が減っていくことはもう避けられず、どのように地域で能力を発揮し、必要な人材を確保していくのか、どのように雇用を維持していくのか、創出していくのかっていうのは大事な視点だと考えております。この総合計画や地方創生総合戦略っていうのをそういう視点で見ながら、これをどんどんベースにしながら、県の発展を見ていかなければならないというのが、報道の立場からの視点です。以上です。

敬愛大学シンポジウム

千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

第2部 これからの展望および課題①

その1、千葉県総合計画について

- ・熊谷氏が知事選の時に掲げた公約「県政ビジョン」を県政運営の最上位計画に落とし込んだ内容
- ・長期計画「10年後のあるべき姿」を示す基本構想編と、中期計画「2022～24年度に重点的に取り組む」実施計画編という二層構成
- ・計画を策定していた21年度に「SDGs推進」「カーボンニュートラル（脱炭素社会）実現」などを取り入れた

敬愛大学シンポジウム

千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

第2部 これからの展望および課題②

その1、千葉県総合計画について（続き）

- ・千葉県総合計画は細部まで行き届いた作りになっているが、チャットGPTを始めとする生成AI（人工知能）の進化の速度はすさまじく足りていない部分も生じている
- ・同計画では「デジタル社会の推進」の項目に、「インターネットを通じて膨大なデータが収集・蓄積され、AIにより解析されるようになってきている」とする記載はあるが、AIの進化は想定を上回っている
- ・AIがさらに進化し社会は大きく変わる見通し。先行き不透明ながら「必要とされる能力」を身に付けるのは重要  
→組織も個人も「強み（特技）」を持つことが求められる



## 第2部 これからの展望および課題③

### その2、減少見通しの県人口推計

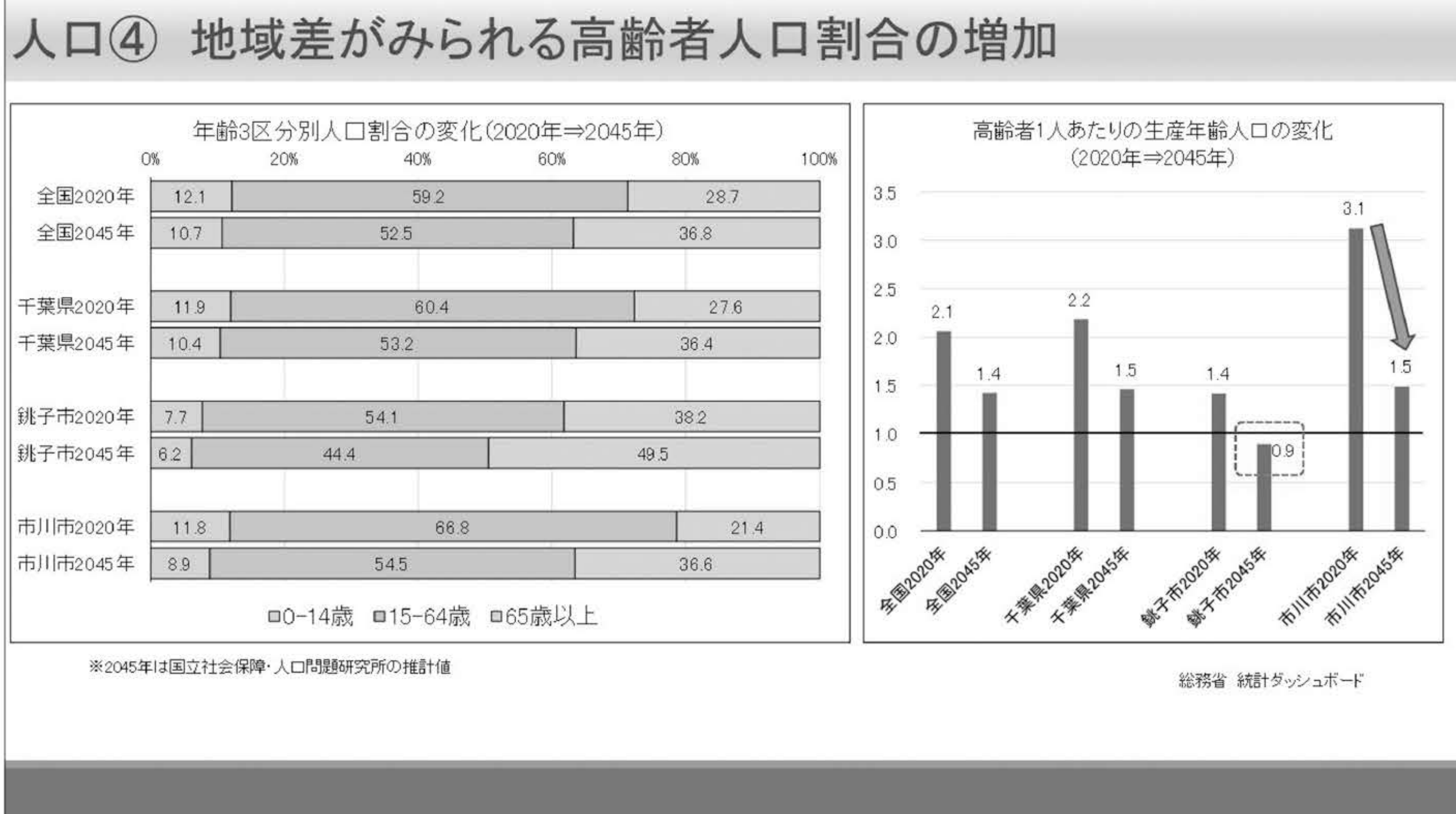
- ・千葉県総合計画にも記載されている人口推計では、2020（令和2）年に628万4千人をピークに減少傾向となる
- ・2060年の推計は514万8千人
- ・人口は都市に集中し、郡部は過疎化する「二極化」が進む。課題は、働く場を創り労働力を確保した「持続可能な社会」の維持
- ・現在議論されている「JR久留里線問題」など、交通インフラのあり方も「その地域だけの問題」ではなくなる
- ・3年前に県が策定した「第2期 千葉県地方創生総合戦略」では、「人口減少社会における持続可能なまちづくり」などを目標に設定している

3

**織井** 伊澤部長さん、どうもありがとうございました。続きまして、ちばぎん総研の小高部長さん、お願いいたします。

**小高** 高橋課長さまからのご説明を伺い、千葉県のポテンシャルですとか、あるいは課題というのは非常によく分かりまして、ありがとうございました。本当に期待を持てる、魅力のある県だなと改めて実感しまして、そうした中で私からは、また人口面と産業面を分けまして、千葉県がより住みやすく、またポテンシャルが十分に発揮されるためにはどういったところがポイントになるかというところを、いくつか述べさせていただければと思います。

まず人口面ですけれども、先ほど高橋課長さまからもお話しがありましたとおり、少子高齢化を千葉県としても課題として捉えているという中で、この問題に対応していくことは、非常に重要であると思います。高齢化は千葉県全体で進行しているのですが、まず進行の状況というのが県内で必ずしも一律ではないというところについて触れたいと思います。

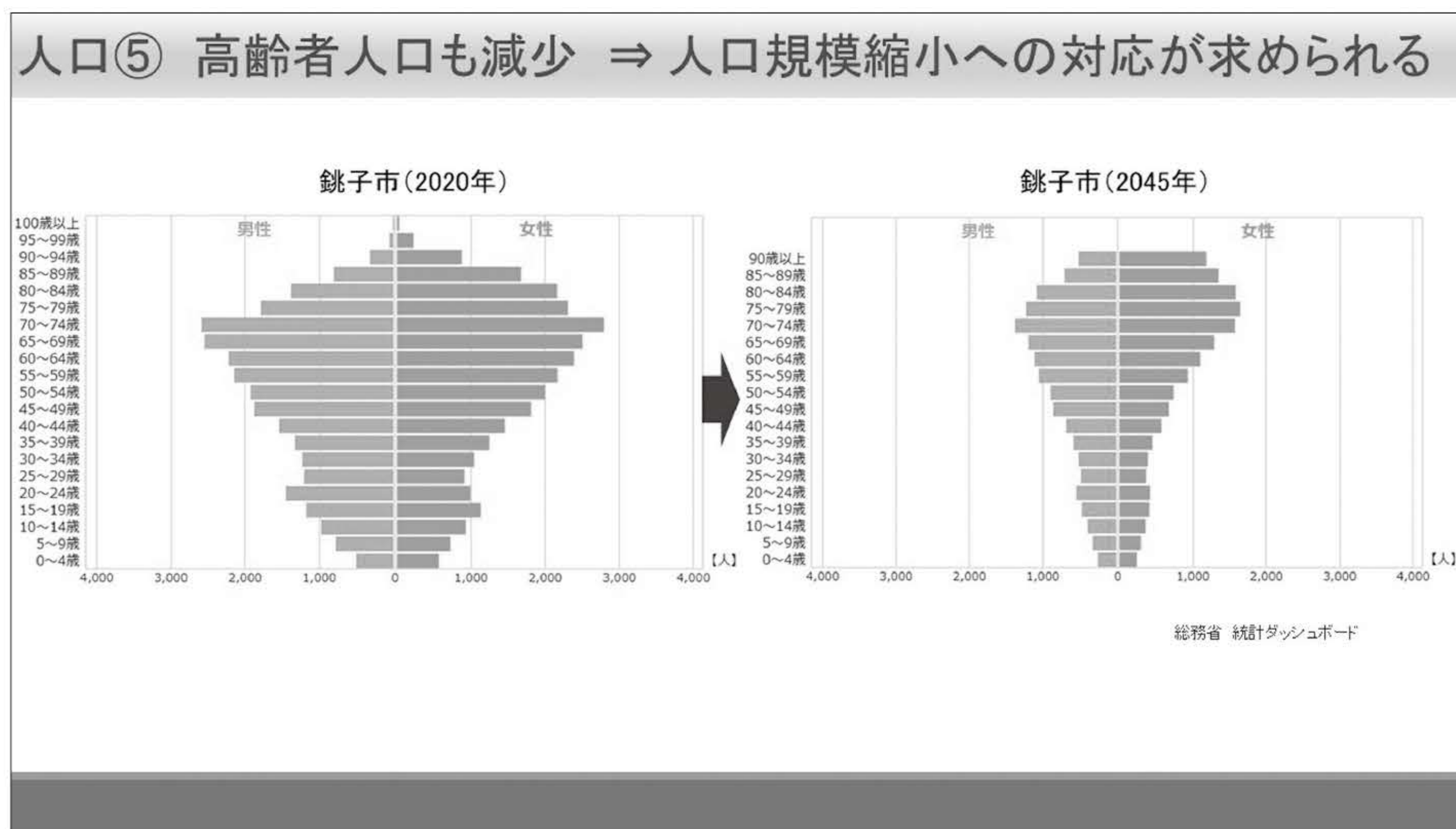




スライドの左側のグラフですが、こちらは千葉県と、銚子市と市川市を例に取って、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口それぞれの割合を2020年と2045年で並べてみたものです。千葉県全体の高齢者の割合というのは2020年から2045年にかけて、当然増えるのですが、水準で見ますと大体、全国と似たり寄ったりの水準となっています。

一方、銚子市ですが、既に2020年の時点で高齢化がかなり進行しておりまして、全国よりも10ポイントぐらい高い割合となっております。これが2045年になりますと大体、半分ぐらい、49.5パーセントが高齢者人口となると見込まれております。一方、市川市ですが、2020年の時点ではまだ全国や千葉県平均から比べると、高齢者割合は低い割合です。ただ2045年になりますと、ほぼ県内平均、全国平均と同じような割合となっていることが分かるかと思えます。つまり、市川市のような都市化が進んでいる、人口ドーナツ化現象が進んだときに、団塊世代とか若い世代が入ってきたところは、今後、急速な高齢化が進んでいくことが見込まれているということです。同じ千葉県内でありながら地域によって高齢化の程度、それからスピードがかなり違いますので、医療・介護といった福祉の政策は地域の実情に合わせていく必要があると考えております。

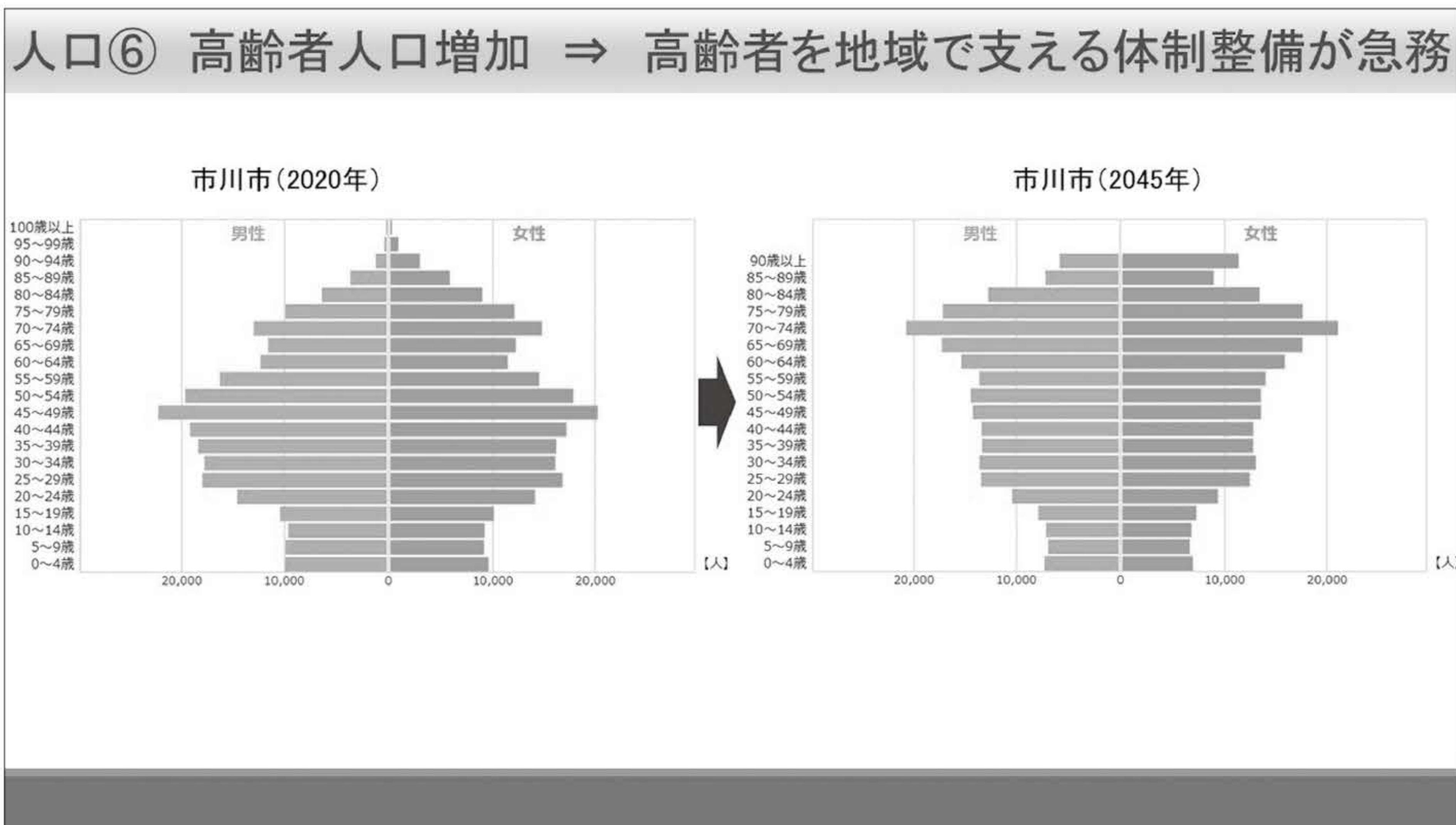
次のスライドは銚子市の年齢別人口、いわゆる人口ピラミッドと呼ばれているものです。



左側が2020年、右側が2045年ですけれども、ご覧のとおりほぼ全ての年齢層において棒が短くなっている、つまり人口が縮小していくということが分かるかと思えます。こういった地域では、近隣自治体との連携ですとか、行政サービスをその連携で維持していくことですか、あるいは地域資源、先ほど洋上風力発電の話がございましたけれども、こういった地域資源を活用した移住促進、交流人口拡大など、人口規模の縮小を見据えた対応が求められていくものと考えております。

次のスライドは、市川市の人口ピラミッドの変化です。





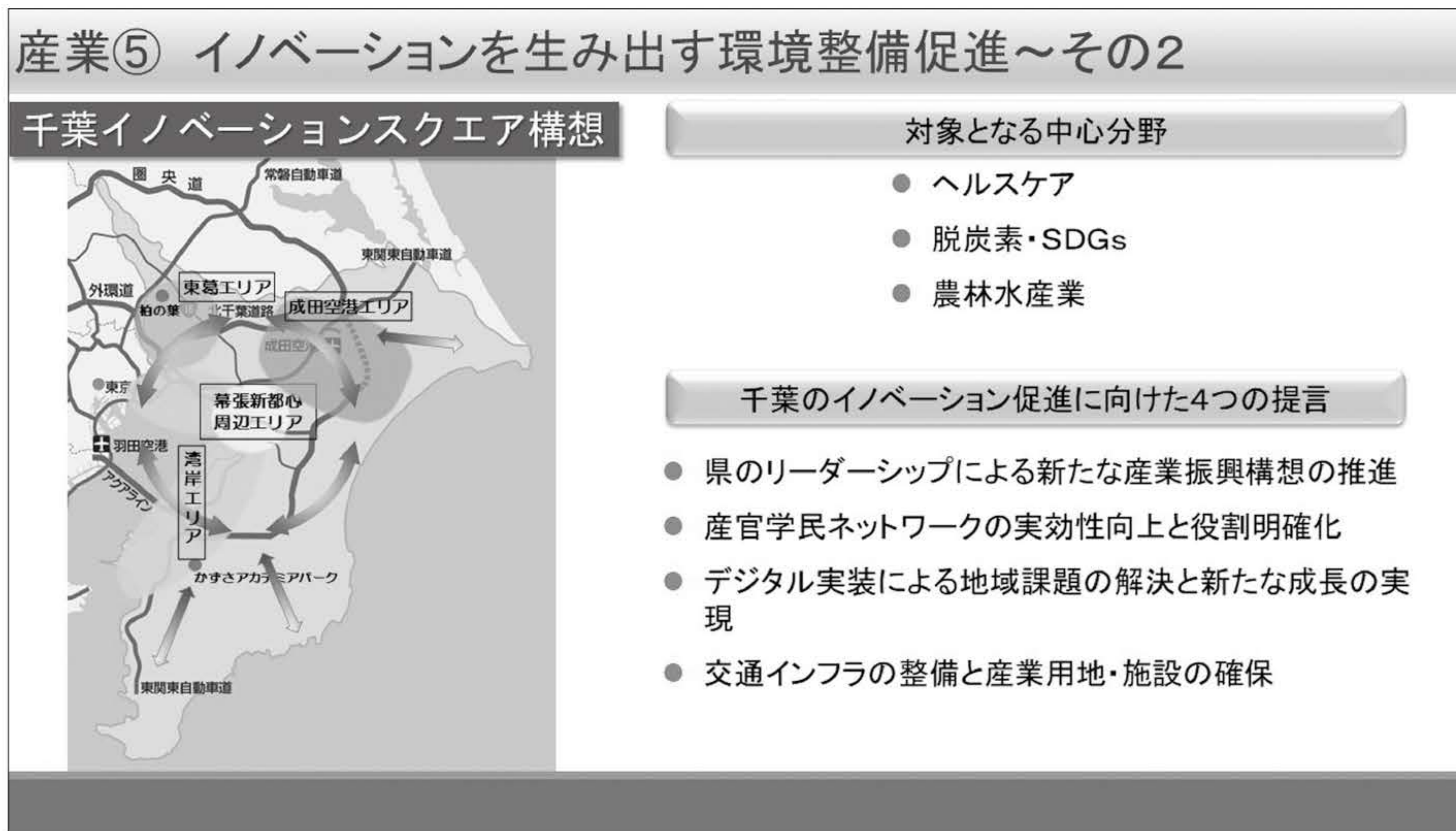
こちらは30代から50代の横棒の長さが短くなっている一方で、60代以上については棒の長さが長くなっていることが見て取れるかと思えます。つまり増加する高齢者を支える現役世代が減っていくということでありまして、こういった地域では医療・介護、それから見守りなど高齢者の方々を地域で支えていくような体制の整備が喫緊の課題だと考えております。

続いて産業面についてもいくつか触れたいと思います。1点目はイノベーションを生み出す環境の整備についてです。経済成長は労働力の増加、資本の増加、それから生産性向上に分解されるといわれますけれども、人口減少期を迎えている日本では、生産性の向上をもたらすイノベーションが非常に重要となってくるかと思えます。現政権も2022年にスタートアップ育成5か年計画を策定しまして、スタートアップの活性化をこれまでにないスピードで進めていくという方針を示しております。そのスタートアップの出所というところですけれども、大学発ベンチャーの期待が高まっているかと思えます。近年、国内の大学発ベンチャーの数というのは増加が顕著となっております、それは左下のグラフで表していますけれども、特に近年の増加というのは目を見張るものがございます。

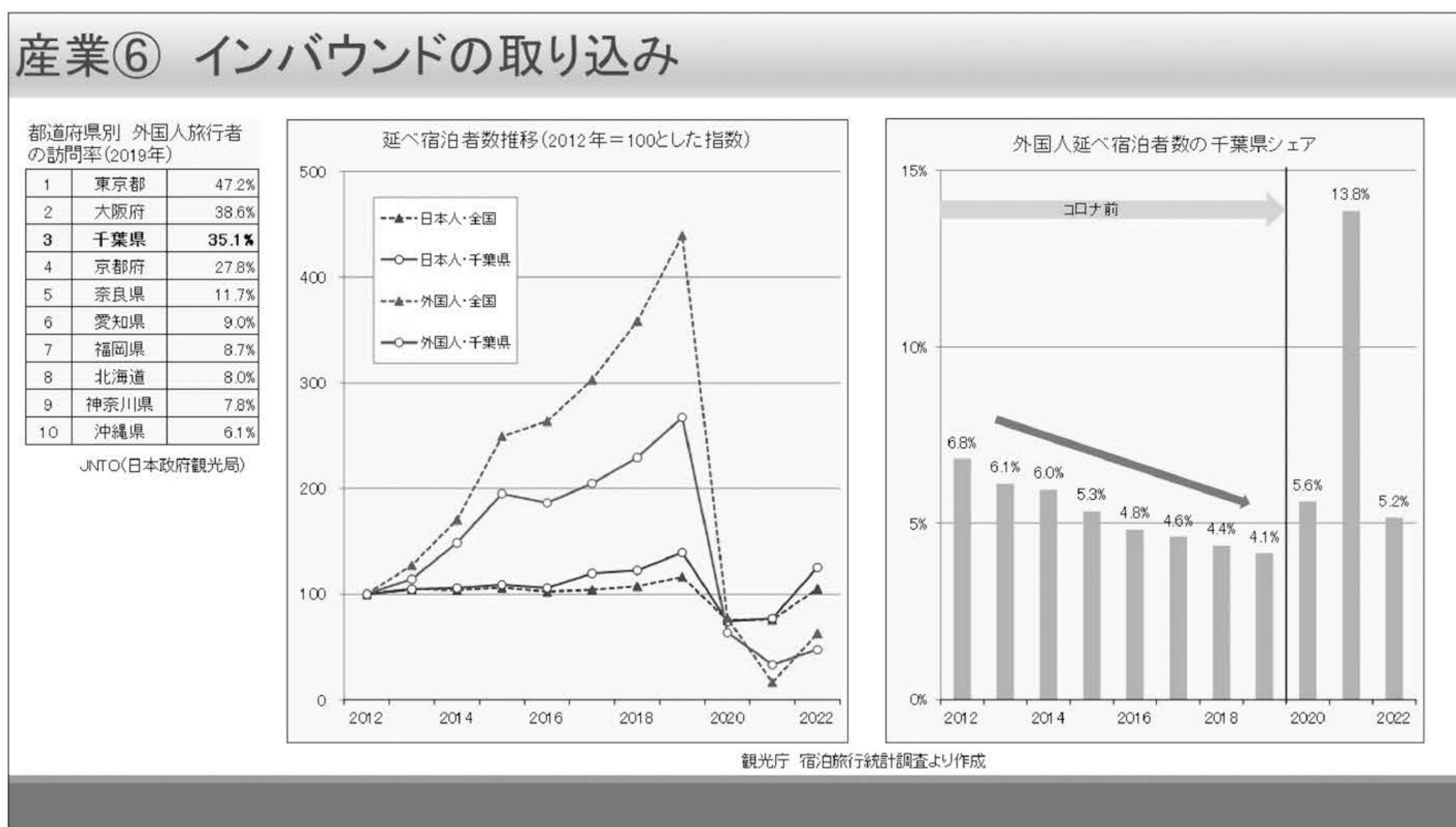




千葉県につきましても右下の表ですけれども、全国の都道府県の中では11番目に大学発ベンチャー数が多い県となっております。情報、場所、資金、こういったスタートアップのニーズについてよく把握し、行政とか産業界が連携して、そうしたニーズに合った支援策を的確に提供していくということが、今後のスタートアップの活性化につながっていくものと考えております。



次のスライドで、イノベーションについてもう一点、述べたいのですが、先ほど高橋課長さまから新産業三角構想のお話がありました。これに千葉県経済同友会が、北西の東葛エリア、特に柏の葉などで、研究施設の集積が進んでいますけれども、この東葛エリアを加えた4拠点、四つのエリアを中心に先端的かつ成長有望な分野の進行を図る「千葉イノベーションスクエア構想」を提言しております。ヘルスケア、脱炭素、それから農林水産業など千葉県の地域の強みを生かしたイノベーション促進が図られていくことを期待したいと思っております。





次のスライドで、最後に観光面ですけれども、コロナ禍で外国人観光客、いわゆるインバウンドは急減しましたが、昨今の報道で外国人旅行者が急速な回復を示しているということは皆さんもご承知かと思います。コロナ前ですけれども、国連が世界の国外旅行者数が今後、急激に伸びていくとの見通しを公表していました。それは低所得国の生活水準が向上してくることによって、海外旅行人口が今後、増えていくという長期的な予想に基づいたものでして、そこから分かりますとおり、外国人旅行者、インバウンドは今後、確実に増えていくことが見込まれております。この外国人旅行者を取り込んでいくことが、多彩な観光資源を有している千葉県にとっては大きなビジネスチャンスかと思います。

スライドの一番左の表ですが、これはコロナ前の2019年の統計ですが、日本を訪れた外国人旅行者に対し、どの都道府県を訪れましたか、というアンケートの結果なのですが、千葉県は京都府を上回って3位という順位です。もちろんこれは成田空港という世界有数の国際空港を有していることが貢献しているわけですけれども、裏を返しますと、その成田空港があるからこそ千葉県のインバウンド獲得のポテンシャルというのは非常に高いということが言えるかと思います。一方で、真ん中のグラフを見ますと、これは外国人の宿泊者数の推移を示しているのですが、千葉県の伸び率は実は全国を下回って推移しております。また一番右のグラフは、外国人の宿泊者数の千葉県のシェアなのですが、これもコロナ禍の影響でわずかに増えているところがあるのですが、それ以前は基本的にはだんだんシェアを落としていたという状況です。

つまり、外国人旅行者の多くは千葉県を訪問はするのですが、宿泊までなかなかつながり切れてないということが言えるかと思います。千葉県は先ほども申し上げましたとおり、非常に多くの観光資源を有しておりますし、県内には非常に魅力のある宿泊施設が数多くそろっています。こうしたことから地域資源の発掘、整備、PRを上手にしていきまして、あるいは空港と県内各地を結んでいく交通インフラを一段と充実させることによって、経済効果が非常に高いインバウンドの取り込みを、もっと上手にやっていくことが千葉県の産業活性化に大きく貢献していくところがあるものと考えております。私からは、以上でございます。

**織井** 小高部長さん、どうもありがとうございました。第2部では、これからの展望と課題と称しまして、千葉県の高橋課長さんから総合計画のポイントをご解説いただいた後、千葉日報社の伊澤部長さんから生成 AIや、あるいは人口減少問題についてのご指摘もいただきました。また、ただいまはちばぎん総研の小高部長さんから人口問題、さらに人口問題やイノベーション、インバウンドの取り込みの重要性ということをご解説いただいたということになるかと思います。

### 大学に求められる役割

**織井** それでは次、最後の部なんでございますけれども、第3部に移らせていただきたいと思います。

第3部のテーマは「大学に求められる役割」でございます。大学、短期大学への進学率は現在、全国で約60パーセント。大学、短大に高等専門学校や専門学校を合わせた高等教育機関へ



の進学率は、8割を超えているというのが日本の現状でございます。本日のシンポジストの皆さまの組織では、県外大学の出身の方が圧倒的に多いのではないかなと思います。県内出身者でも、県外大学、特に東京の大学で学んだ方が多いのではないかなと思いますが、本学、敬愛大学のような、県内の私学の高等教育機関は、大半の学生が県内出身でございますし、多くの学生が県内に就職しております。ということは、私どもは県内の各職場での中堅人材の任を負っておりますし、また国全体や千葉県が抱える課題の解決に資するような学生の教育が求められているかと思えます。

具体例で申しましては、国全体でデータサイエンスなど理系分野の充実を図るなどして、日本の国際競争力を向上させるとか、また人手不足に対応するなどが求められております。私どもの敬愛大学でも、来年度には国際学部情報・データサイエンスの新コースを設置するなど、教育研究内容の刷新に努めておるところでございます。

第3部では、各界のシンポジストの皆さまから敬愛大学をはじめとして、県内の進学者や就職者が多い高等教育機関を念頭に置きまして、期待される役割についてのご意見を伺ってまいりたいと思っております。では、また千葉県の高橋課長さんから、このテーマに関して、ご指摘、ご意見をお願いいたします。

**高橋** それでは私から大学への期待ということで、お話をさせていただきたいと思えます。資料のとおり、県内には本当に多くの大学がありまして、いろんな方々と一緒に、いろんな連携した取り組みをされていると認識しています。

例えば、敬愛大学と県との間でも、新任の学校の先生、教頭先生に対する研修において敬愛大学の先生に講師として来ていただいて、お話をいただくこともしておりますし、あるいは学生の皆様に、パラスポーツイベントのボランティアにご協力をいただいているお話も伺っております。また、県商工労働部では、毎年、職員が敬愛大学に伺いまして、授業の中で中小企業振興の話を見せていただいておりますし、そういう協力関係も取らせていただいているところです。

他の大学でも、例えば、先ほど話も出ましたような、スタートアップ企業と医療機器を共同で開発するような連携した取組をしているような事例もありますし、あるいは共同研究みたいなことを県の研究機関と大学とで行われているところがございます。

先ほどご説明したように、県内、非常に様々なポテンシャルが向上しつつございますので、こういった中で、資料にも書きましたけども、「いろんな人が集まって活躍をする千葉県へ」というようなところを目指して、進めていきたいと思っております。

いろんな大学と連携をして、いろんな人たちが県内で様々な活動をしていただき、それが好循環となって更に人が集まる、活躍できるような千葉県にしていきたいと思っております。

そのためには大学や短期大学の皆様方のご協力というのは欠かせないと思っております。

県内の大学の皆様が、企業、あるいは大学、団体の様々な人と連携をすることによって、更に新しい取り組みが進んでいき、そういう新しい取り組みが次々と生まれてくることで、様々な人が集まってお互いに刺激し合うといったようなことで相乗効果を生んで、更に活躍していく、そんな社会を作っていきたいというのが、先ほど伊澤部長さんからもご紹介



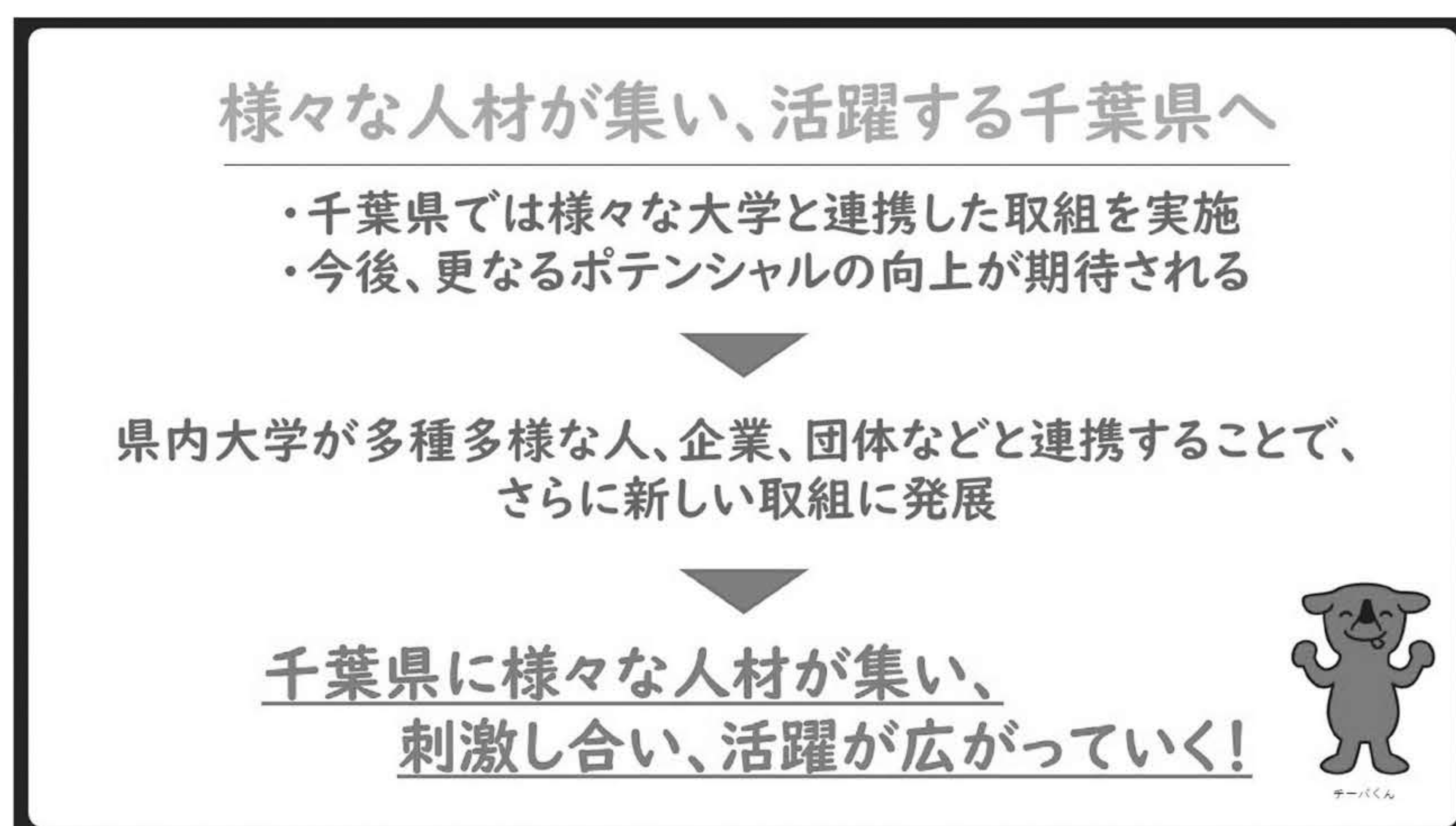
がありました、今、千葉県が議会に提案している多様性尊重条例です。

そんな想いを皆様と共有をしながら、ぜひ次の時代の千葉県を作っていきたいと思っております。

また、敬愛大学では、新たに情報・データサイエンスコースを設立することを検討しているというお話もございましたけれども、県の政策立案においても EBPM(エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング)、データに基づいて政策立案をしていくことで、データ分析をしながら、いろんな計画を策定しているところです。様々な施策もデータを基に分析し、改善をしていくことを行っているところです。

ぜひ新しいコースには期待しておりますし、いろいろと連携していければいいなと思っています。

よろしく願いいたします。



**織井** ご期待ありがとうございます。続いて、千葉日報社の伊澤部長さん、お願いいたします。

**伊澤** 千葉日報、伊澤です。第3部で、大学に求められる役割ということで、端的に二つ挙げさせてもらいました。「強みを持とう」「特技を持とう」というところを、これは大学に対しても個人の学生の皆さんに対しても、提案というか提言というか、させていただきたいと思っています。

個人的に政治部門が長かったので例に挙げますが、「政治部門が長かったから政治が大好き」というだけではなく、個人的にスポーツが好きで、それが取材に生きたり、生かされたのは、自らの強みだと自負しております。ただ単に政治一本だけではないところが、うまく仕事にも生かされてきたなというふうには考えていて、それが仕事につながってきた実感があります。今度は学生の皆さんがたにも、何かしら自分の好きなことを極めていくと、仕事に生かされたり、それが仕事につながったりということにもなると思いますので、特技を磨いてほしいなど。

大学の強みも「こういう強みがある」と示せば、学生が集まりやすくなると考えていま



す。きょう、冒頭でもお話ししましたが、学生ということで選挙にちょうど関わり始める年齢かと思えます。2016年の6月から選挙権の年齢が以前の20歳以上から18歳以上に引き下げられました。これによって大学生の皆さんがたには、公職選挙、投票できるという権利が与えられています。織井所長から大学の紹介パンフレットを頂きました。後ろのほうに在学生の出身校一覧が載っていました。

ご説明いただいた時に、学生の8割、9割が地元、千葉県内の方が多いと聞いています。県を超えると、選挙権が実家の住所にあって投票できないというケースもあるのですが、県内の方でしたら県内、知事選なり市町村の首長選、もしくは議員選、身近に投票に行くことができますので、投票に行くということが県政なり政治なり生活なりに関心を高めることにつながり、自分たちの生活に関心が高まれば、今度は選挙にも行ってみようという、先ほども触れましたけども好循環が生まれることになります。

きょうのお話の結論としては、一つは「強みを身に付けていただきたい」ということと、もう一つは、より良い社会をつくるためには「選挙に行って若者の皆さん、学生の皆さんの声を行政に反映してほしい」というのがきょうのお話ししたいことです。以上です。

敬愛大学シンポジウム  
千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

### 第3部 大学に求められる役割①

#### その1、「強み（特技）」を持つ

- ・団体でも個人でも強み（特技）があるのは有利。極めれば職業にもなり得る
- ・生成AIの進化はすさまじい。団体でも個人でも、うまく活用できれば大きな力になる

1

敬愛大学シンポジウム  
千葉県150周年：発展の軌跡とこれからの展望および課題 ～大学に求められる役割～  
千葉日報社 編集局報道部長 伊澤敏和

### 第3部 大学に求められる役割②

#### その2、選挙に行こう！

- ・2016年6月から、選挙権年齢は以前の「20歳以上」から、「18歳以上」に引き下げられ、大学生も公職選挙（知事や市町村長などの首長選挙や、議員選挙）に投票できる
- ・「ニワトリが先か、卵が先か」ではないが、「投票すれば政治に関心が高まり、政治に関心が高まれば投票に行くようになる」  
県政への関心が高まる好循環

【結論①】社会の動きに即した能力を身に付けることは重要

【結論②】よりよい社会をつくるために、  
選挙に行って若者の声を反映させることも重要

2

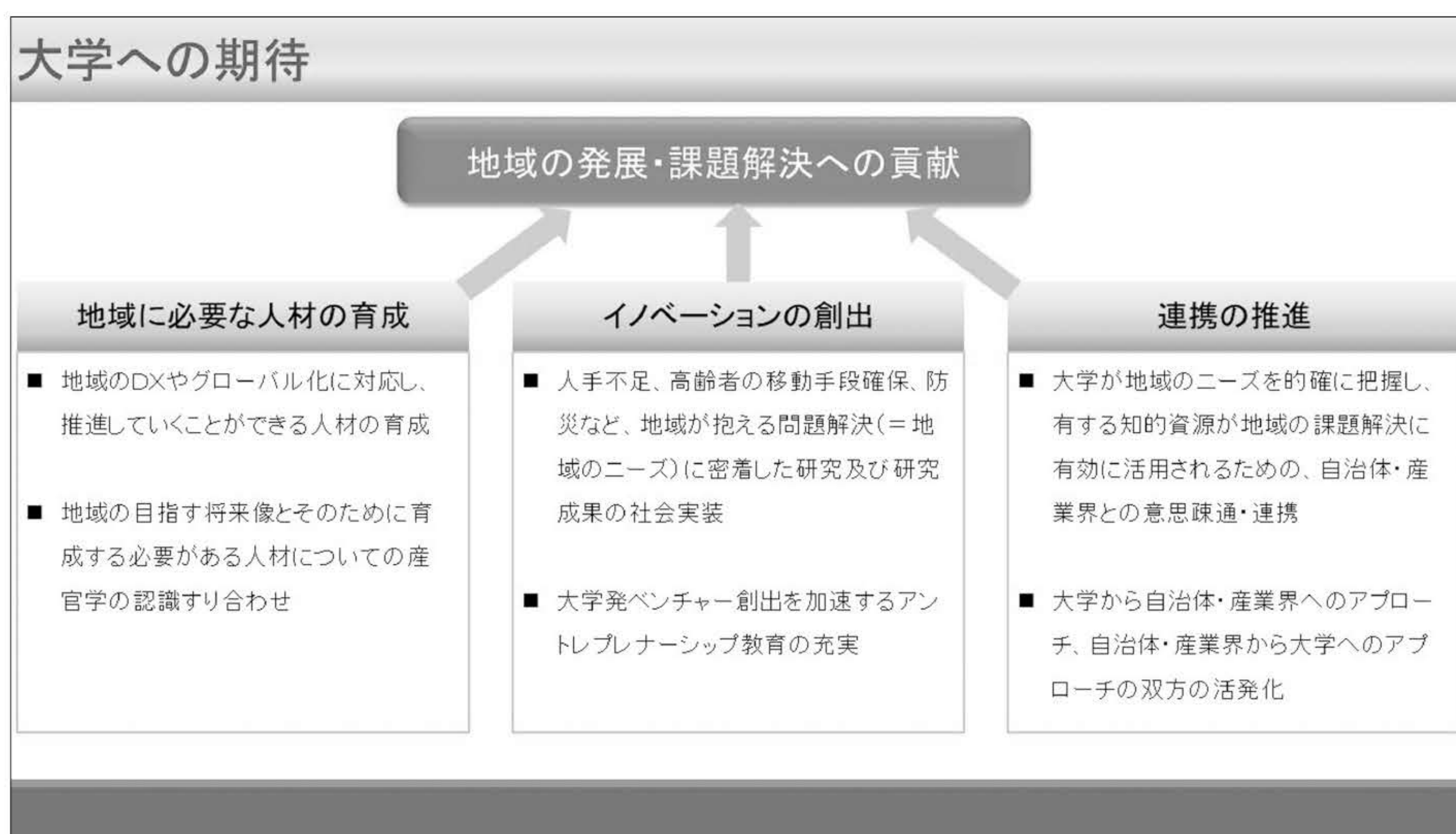


**織井** 伊澤部長さん、ありがとうございます。それでは、ちばぎん総研の小高部長さん、お願いいたします。

**小高** 私はこれまで多くの自治体のまちづくりに関わるお手伝いをさせていただいてきて、そういった場面で大学の先生方と一緒にする場面が多くありまして、個人的にはさまざまな案件で、助けていただけてきました。そのように助けていただければばかりの私が期待を申し上げるのは僭越でおこがましいのですが、地域貢献という視点で大学に期待したいところを三つほど申し上げたいと思います。一つ目は、地域に必要な人材の育成という点です。デジタル化ですとかグローバル化という時代の潮流に合った人材を育成すること、ということもさることながら、地域が目指す将来像を産官学で共有し、本当にどういう人材が地域に必要なのかということ、社会全体ですり合わせを図りつつ、そういった人材を育成していくことは今後、地元の大学としては重要なポイントになってくるのではと思っております。

二つ目が、イノベーションの創出というところですが、先ほど大学発ベンチャーの数の話もさせていただきましたけれども、知の集積がある大学というところはイノベーションを生み出す可能性が非常に高いところだと考えています。研究成果の社会実装ですとか、起業マインドの醸成、こういったところで大学は積極的な役割を果たしていただければと思っております。最後に三つ目が連携の推進というところですが、地域課題の解決というところに関しましては、大学の中で閉じた研究活動というよりも、自治体ですとか産業界と交流しながら、課題認識に基づいた研究活動をしていくことが、今後ますます必要になってくると思います。私の周りでも防災に関するいろいろな取り組みを、行政と大学と一緒に進めている事例を見たりして、今後、地域の課題解決に向けて、より一層大学が積極的に関わっていくことを期待していきたいと思っております。

敬愛大学は、「ちば産官学連携プラットフォーム」に参加されておりまして、こうした取り組みはまさにそういった連携の推進を具現化したものだと思います。今後の「ちば産官学連携プラットフォーム」の活動展開に期待しています私からは以上でございます。





**織井** 小高部長さん、ありがとうございます。第3部は「大学に求められる役割」と称しまして、皆さまのご意見を伺いました。千葉県の高橋課長さんからは、連携の必要性ですね。いろいろな人材がつながるということが重要だということをお伺いしましたし、千葉日報社の伊澤部長さんからは強み、それから選挙に行こうでございますね。私どもも学生に対する教育研究ということでは、選挙に行ってもらうような教育も必要だなというふうに痛感しております。また、ちばぎん総研の小高部長さんからも、地域の目指す将来像を認識し擦り合わせることが重要ということで、またベンチャー創出や自治体、産業界へのアプローチという面でも大学のこれからの方向性を考えていきたいと思っております。

本当に各分野の皆さまから、大学への期待や方向性についてご示唆いただきまして、ありがとうございます。有益なご意見をいただきましたので、これからの教育研究に生かしてまいりたいと思っております。

### 質疑応答とまとめ

**織井** それでは、最後のセクションなんですけれども、質疑応答に移らせていただきたいと思っております。事前にいただいております質問もございますので、それに対するご回答を試みたいと思っております。おひとつかた、二つ質問をいただいております。一つは千葉県内大学の連携授業、例えば共同研究や共通単位取得授業等についてに関して、ご質問を受けております。県内大学では、単位互換という制度もございます。ただしあまり活発でないのが実情でございます。それから、大学との連携授業については、千葉県の高橋課長さん、何かフレームワークについてお願いできますか。

**高橋** 先ほども、ご紹介をしましたがけれども、授業という意味では県の職員が県内の大学で講演させていただくことを、県庁内のいろんな部局がやっております。私ども政策企画課でも、例えば千葉科学大学や千葉商科大学などの県内大学において、若者と一緒に考える地域活性化セミナーというセミナーを開催し、人口減少の状況や若者の本県への定着などについて講演しており、また、本日のように総合計画について授業の中で講演させていただくような、そんな取り組みもしているところでございます。

また、敬愛大学では、商工労働部の職員が伺い、中小企業振興など県内の中小企業に目を向けていただくための講演をさせていただくなどの取り組みもさせていただいているところです。

**織井** どうも、ご説明ありがとうございます。ますます、この連携を進めていけられたらなと考えております。それからもう一つご質問いただいておりますのが、千葉県の誇る地下資源である天然ガスとヨウ素の活用についてということでございます。千葉県の特に東部のほうでございますね、天然ガスやヨウ素が出ますけれども、この活用についてご意見を伺いたいということなんで、これも千葉県の高橋課長さん、よろしいですか。お願いいたします。

**高橋** 千葉県では、特に茂原市やその周辺地域を中心に非常に天然ガスが埋蔵されており



ます。国内で使われているガスは、ほとんどは輸入していますが、茂原市や市原市、あるいは陸沢町などの地域では、一部その天然ガスをご自宅でも使われているというケースがあります。その天然ガスをかん水するに当たって、ヨウ素が取れるためヨウ素の算出量は、国内では千葉県が群を抜いており、世界的にもシェアがかなり大きいという状況です。

そのヨウ素を、例えばマダガスカルなど、海外でヨウ素が不足している国に、県が民間団体と協力をしながら寄贈をすることも行っていたり、最近、ペロブスカイト太陽電池という薄い太陽電池パネルが開発をされつつあって、その薄い太陽電池パネルの原材料にヨウ素が使われていることもあって、非常に注目されている資源の一つということになります。

県では千葉大学と連携をして、千葉大学の中に千葉ヨウ素資源イノベーションセンターというセンターを置いて、千葉大学の先生方やヨウ素業界の方々が、そこで共同研究をすることも進めており、非常に注目をされているところなので、ぜひ皆様、注目していただければと思います。

**織井** ご回答、ありがとうございます。洋上風力発電と並んで、天然ガス、それから特にヨウ素ですね、これもぜひ期待していきたいと思います。

では、Zoomをご覧の方から、このような質問をお受けしております。「第二部の観光の話でも少しありましたが、Googleは千葉県印西市に建設したデータセンターを、今年4月、開設されていますね。こちらは行政の方でも誘致をされたのでしょうか。また印西市へ、どのような期待がありますか」というご質問です。印西市に開設した、Googleのデータセンターのことについてのご質問ですが、回答はどなたにお願いするのがよろしいでしょうか。行政の高橋課長さんがよろしいようですので、お願いいたします。

**高橋** Googleのデータセンターが開設したということで、ニュースになっていたところがございます。県や印西市が誘致したという話は存じ上げませんが、オープニングのときには知事も伺うなど、大変、歓迎をしていると聞いているところでございます。

また、Googleがデータセンターを印西市に開設するに当たって、県とも何か協力をしてできないかというようなお話も伺っているところです。

世界の印西ということで、データセンターの立地場所として非常に注目をされていると県としても認識をしています。民間の立場からは、その辺について期待のお話があるかと思っておりますので、お願いします。

**伊澤** 千葉日報、伊澤です。ちょうど、まだ政治経済、担当をしていた時に、経済担当の記者が、印西にGoogleのデータセンターが来るということで、取材に行って紙面化もいたしました。そもそも、なぜここが狙われたのか、ここに来たのかということ、地盤が非常に強固という特徴があったことが一つの要因です。

そして、半世紀余り前に県が「千葉ニュータウン(N T) 構想」を打ち出しながら、当初想定していた人口34万人計画は予定通りに進まなかったことで、データセンターに欠かせない電力インフラを増強する余地があったということです。

千葉N Tの最終的な計画人口(2013年)は当初を大幅に下回る14万3300人となり「失敗」



と指摘する人もいましたが、長い年月を経て「データセンターが、新たなデータセンターを呼ぶ」という構図になっているのが現状です。使い切れていなかった「インフラのキャパシティー」を活用できたという、今となって功を奏したという部分があります。

あとはデータセンターという機能上、セキュリティ面を非常に重視しているのです、この施設がどうなっているのかつまびらかになっていない現状があります。地元住民の方が「あの施設、中はどうなっているの？ 見たい」と言っても、「では皆さん、どうぞ」と公開できる性格の物じゃないです。すごい施設があるのだけれども「中身が何？」と言われても、説明できない、もどかしい部分かなとは思っています。いずれにしても、それだけの優秀な企業が千葉県の印西っていう所に進出したっていうのは、一つ大きなニュースとしては受け止めています。

**織井** 高橋課長さん、伊澤部長さん、ありがとうございます。こういったいい話は、本当に積もっていけばいいですね。日本全体では、熊本に外資系企業 TSMCの進出の話がありました。日本の他地域や千葉県の中でもこういういいお話が、他にもどんどん増えていくことを期待していきたいなと思っています。では、ご質問はこれで終了でよろしいですね。いろいろご質問いただきましてありがとうございます。それでは閉会あいさつに移らせていただく前に、今日はいろいろご意見をいただきました、シンポジストの皆さまに一言ずつ、まとめや感想の言葉をいただければと思います。千葉県の高橋課長さんから一言、お願いいたします。

**高橋** 本日は本当にどうもありがとうございました。すごく勉強にもなりましたし、一言でまとめるとすれば、地域の課題解決をいろんなバックグラウンドをお持ちの方々と一緒に考えていくことが、本当に大事だなと実感をしたところでございます。

今日はどうもありがとうございました。

**織井** ありがとうございます。それでは千葉日報社の伊澤部長さん、お願いいたします。

**伊澤** 千葉日報、伊澤です。本当に県の高橋課長や、ちばぎん総研さんの小高部長、データに基づいたご説明で、非常に今さらですが勉強にもなりました。重ねてですが、私からはきょうは、「強みを持って生かしてほしい」ということと、この県を良くしていくためには、県政、政治に関心を持ってほしい、そのためには「選挙に行ってほしい」。本当に、この2点だけを言いに来ましたので、学生の皆さんもそれを、できれば関心を持っていただけると、きょうお話しした意義があったのかなと感じます。以上です。

**織井** 伊澤部長さん、ありがとうございます。本当に千葉県は全国の中でも投票率が低いほうですので、ぜひ大学としても教育に努めてまいりたいと思います。ではちばぎん総研の小高部長さん、よろしくお願いいたします。

**小高** ちばぎん総研の小高でございます。きょうは本当にありがとうございました。県の行政の中心にいらっしゃる高橋課長さま、それから報道の第一線ですと行政を見てこら



れた伊澤部長さま、こういったの方々の声、ご意見を直接にお聞きすることができ、貴重な経験をさせていただきました。地域のことをいろいろ考えていく際に、一方向からの見方というのではなくて、いろいろな立場の、いろいろな見方に接していくということが、非常に重要だということを先ほど、高橋課長さんもおっしゃっていましたが、全く同感でございます。そういう意味でこうした機会に参加させていただくことができたという点で、本当に感謝しております。どうもありがとうございます。

**織井** どうもありがとうございます。お三方から、本当に連携の重要性を指摘されております。今回せっかくおいでいただきましたこの連携も、ぜひ今後も大事にしていきたいと思います。

### 閉会あいさつ(敬愛大学中山学長)

**織井** 閉会あいさつとして本学学長の中山幸夫からごあいさつさせていただきます。中山学長、よろしくお願いいたします。

**中山** 学長の中山でございます。本日は師走の大変お忙しい中を、本学総合地域研究所主催のシンポジウムにご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。千葉県150周年、発展の歴史とこれからの展望および課題という大きなテーマが設定されましたが、県内の自治体、企業様を代表しまして、千葉県総合企画部の高橋様、千葉日報社の伊澤様、そして、ちばぎん総合研究所の小高様、3名のシンポジストの皆さまより誕生150周年を迎えた千葉県のこれまでの歴史、発展の軌跡を振り返りながら、これからの展望と課題について、そしてまた大学に求められる役割に関してご発表、ご提言をいただきました。皆さまのご発表を通して、千葉県の誕生と人口の推移、また県の産業の発展とその構成比、千葉市をはじめとする三つの地域を中心とした新産業三角構想、そしてこうした構想を支える鉄道網や高速道路、成田空港発着の、航空機等の交通インフラの整備、また歴代千葉県知事の県政運営など、さまざまな視点から千葉県の発展の意味を概観できたように思います。

これからの展望および課題をめぐっては、「千葉県総合計画」を中心に千葉県を取り巻く環境の変化と、諸課題を確認することができました。それぞれがこれからの重要な課題であり、またつながりを持つものですが、この中でも人口減少、少子高齢化への対応、環境保全、持続可能な社会づくり、SDGsの推進、そしてデジタル社会の推進はこれからの千葉県の発展と、持続可能性を左右する大変重要な課題であることを改めて確認した次第です。人口減少、少子高齢化の問題については地域の差も見られるという指摘はありましたが、予測を上回る速さで進む少子化によりまして、若年人口および労働者人口の減少も懸念されているところですが、このような人口減少社会を乗り越えていくためには、出生率を高める取り組みとともに、人口減少を前提に社会を作り直していくことも必要になるかと思えます。

またデジタル社会の推進については、ご発表にもありましたように、情報通信技術や人工知能、AIがすさまじい速さで進化・発展しています。その先には Society 5.0と呼ばれる



新しい時代、超スマート社会が到来するわけですが、既にさまざまなコンテンツを生み出すことを可能とする ChatGPTをはじめとする生成型 AIも登場しており、これからの社会生活を大きく変えようとしていることは私たちも実感しているところであります。時代を表すキーワードとともに、千葉県を取り巻く環境の変化と課題に関して、若干の感想を述べさせていただきましたが、シンポジストの皆さまからは、大学に求められる役割についてもそれぞれの立場からご提言をいただき、ありがとうございました。

変化の激しい時代状況の中で、大学に求められる役割、果たすべき役割はいろいろありますが、社会の動きに対応しより良い社会をつくることに貢献できる、今後はそうした人材を育成するところに重点が置かれるのではないかと考えております。本学に関して申し上げますと、敬愛大学ビジョン2030におきまして、2030年度までに達成すべき目標を5項目挙げていますが、その中の一つに「新たな時代の変化に対応する教育～Society 5.0に対応する AI人材を養成～」があります。Society 5.0の時代に人間の強みを発揮する創造力、イマジネーションとクリエイティブな創造力、この両方を備えて二つを活用できる人材を育成するというものです。

変化が激しく予測困難な時代であるからこそ、デジタル時代の読み書きそろばんとして AIデータサイエンスの基礎力を習得し、社会を積極的に支える人材になってほしいと考え、本学では各学部の専門領域とは別に、もう一つの専門を学べる副専攻としての「AIデータサイエンス」を設置しております。建学の精神である「敬天愛人」の具現化の一つとして、これからの時代に必要なスキルセットを教育に組み込んだ内容として運営しており、これは文部科学省が推進する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度で、「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」、2つの認定を受けております。新しい時代に向けた取り組みの一つとして紹介しましたが、こうした取り組みが本学の強みの一つとなるよう努め、また、ちば産官学連携プラットフォーム、これらも通して社会を積極的に支える人材の育成に取り組んで参りたいと思います。

終わりに当たり、本日ご登壇いただきました、3名のシンポジストの皆さま、そしてオンラインで参加をいただきました皆さまに感謝を申し上げながら、御礼、並びに閉会のごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(了)